

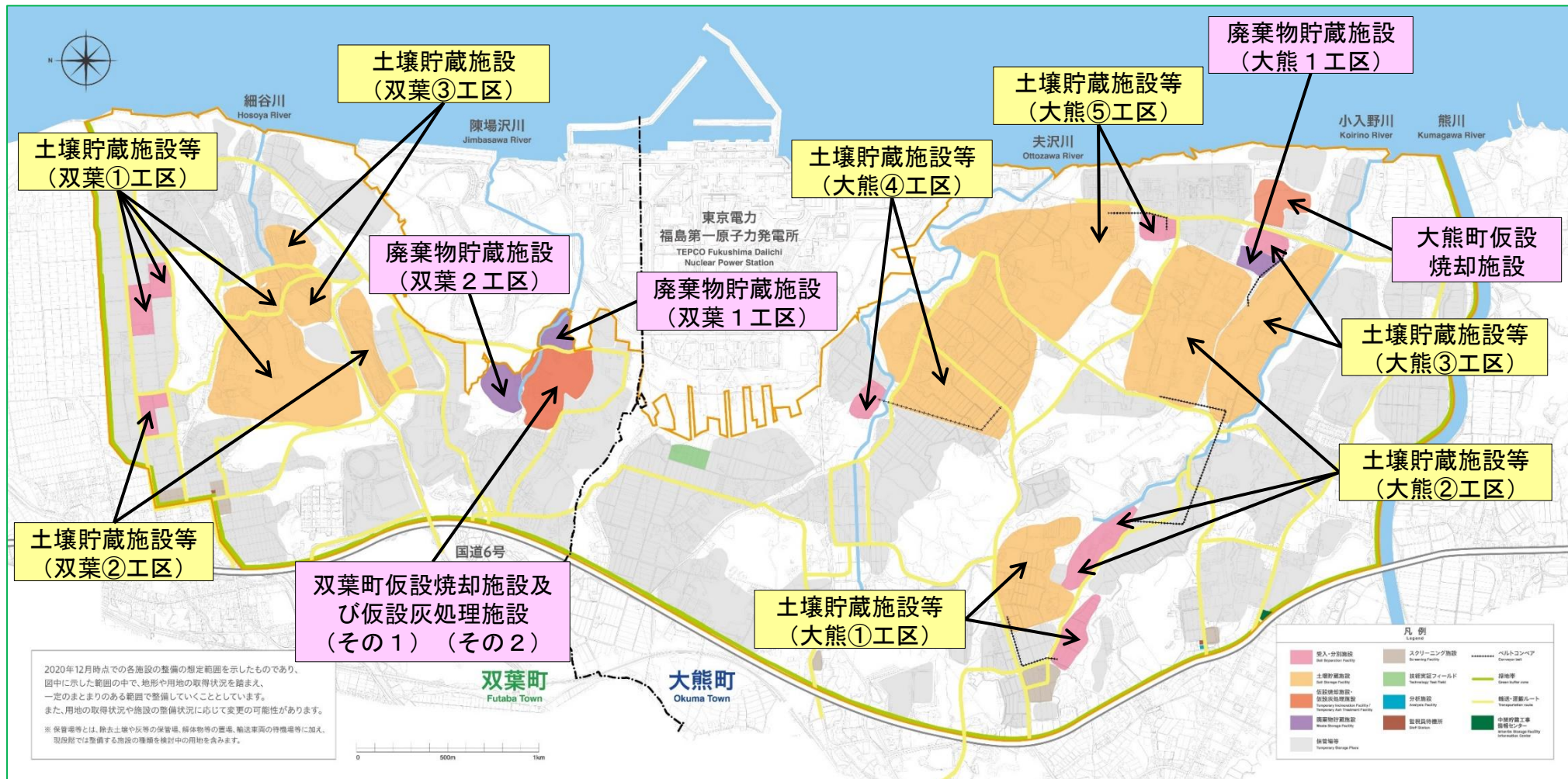


中間貯蔵施設事業の状況について

2022年8月
環境省

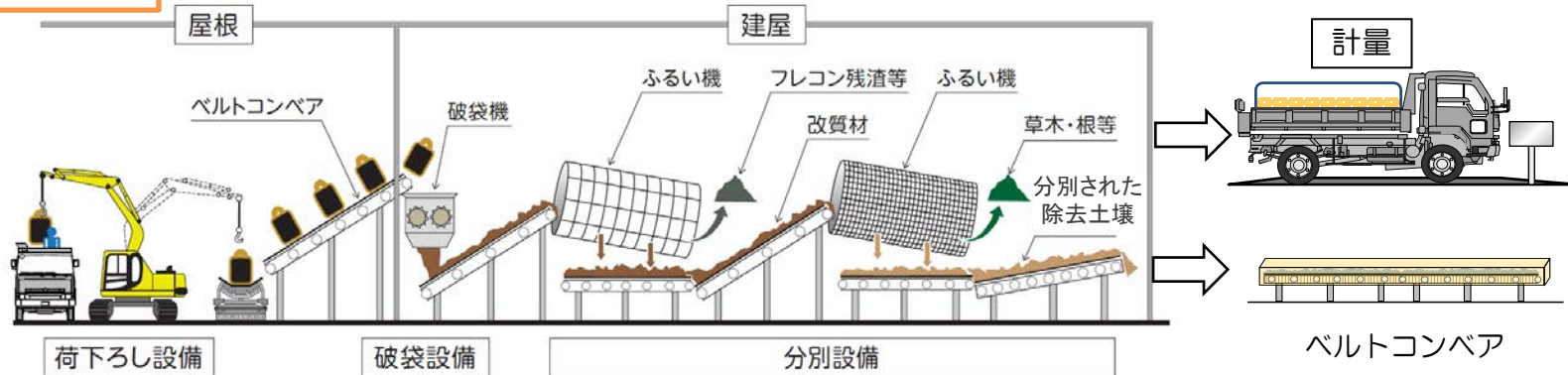
施設の整備

主な施設の配置



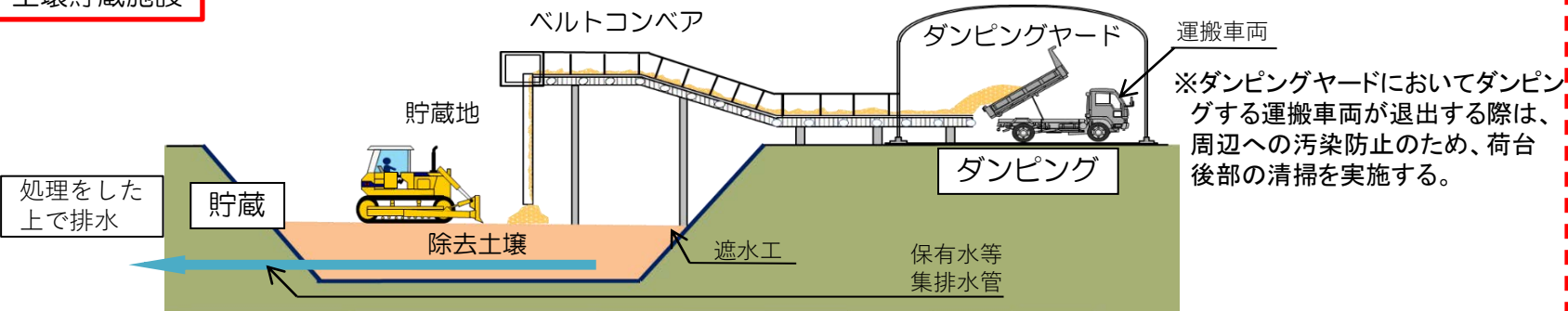
除去土壌の分別処理と貯蔵のイメージ

受入・分別施設



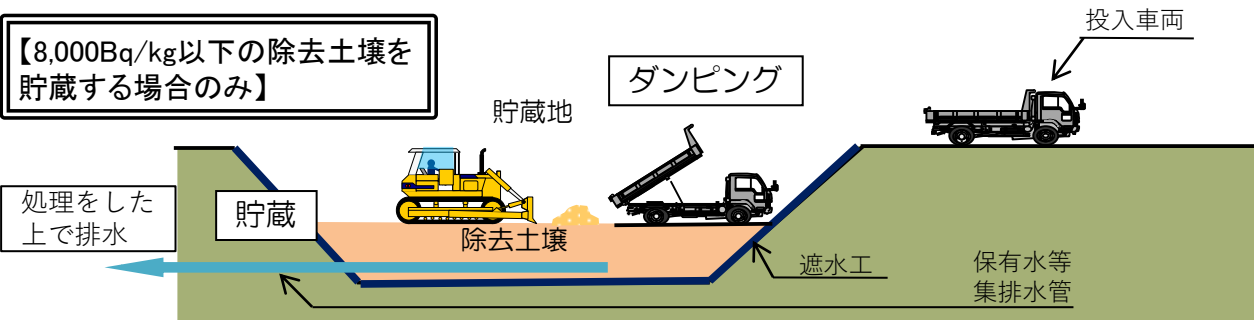
ベルトコンベア
又はダンプで運搬

土壌貯蔵施設



※ダンピングヤードにおいてダンピングする運搬車両が退出する際は、周辺への汚染防止のため、荷台後部の清掃を実施する。

【8,000Bq/kg以下の除去土壌を貯蔵する場合のみ】



※貯蔵地を走行する投入車両が公道に退出する際は、汚染検査又はタイヤ洗浄を実施する。

受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の概要

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
受入・分別施設数※ ¹	1	2	1	1	1	2	1	—
貯蔵容量※ ²	約100万m ³	約330万m ³	約210万m ³	約160万m ³	約200万m ³	約140万m ³	約90万m ³	約80万m ³
着工	2017年 9月着工	2016年 11月着工	2017年 11月着工	2018年 10月着工	2018年 10月着工	2016年 11月着工	2018年 1月着工	2018年 9月着工
受入・分別施設 スケジュール	2018年7月 運転開始 2022年9月 解体開始予定	2017年8月 2018年7月 運転開始 2022年6月 解体開始※ ³	2018年7月 運転開始	2019年8月 運転開始	2019年8月 運転開始	2017年6月 2018年9月 運転開始 2022年5月 解体開始※ ³	2019年2月 運転開始 2022年5月 解体開始	(なし)
土壌貯蔵施設 スケジュール	2018年7月 運転開始 2022年8月 貯蔵完了予定	2017年10月 運転開始	2018年10月 運転開始	2020年3月 運転開始	2019年4月 運転開始	2017年12月 運転開始	2019年5月 運転開始 2022年4月 貯蔵完了	2019年12月 運転開始
受注者	鹿島JV	清水JV	大林JV	清水JV	大林JV	前田JV	大成JV	安藤・間JV

※¹ 発注時の1施設当たりの処理能力は140t/時。双葉③工区は、受入・分別施設を整備していない。

※² 貯蔵容量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋＝1m³で換算）。用地確保状況等により変更となる可能性がある。

※³ 2施設のうち1施設について運転終了、解体を実施中。

土壌貯蔵施設等（大熊①工区）の状況

- 2017年9月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転及び除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ★: 土壌貯蔵施設

● **貯蔵量 約 105.8万m³**

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2022年 6月 30日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊②工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年8月及び2018年7月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年10月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2022年6月から受入・分別施設2施設のうちの1施設の解体を開始。



受入・分別施設(稼働中)



受入・分別施設(解体中)



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 290.1万m³

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2022年6月30日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊③工区）の状況

- 2017年11月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2018年10月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 132.3 万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（2022年6月30日時点）

土壌貯蔵施設等（大熊④工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年8月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2020年3月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 134.1万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2022年6月30日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊⑤工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年8月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年4月に除去土壌の貯蔵を開始。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 174.5万m³

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2022年6月30日時点)

土壌貯蔵施設等（双葉①工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年6月及び2018年9月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年12月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2022年5月から受入・分別施設2施設のうち1施設の解体を開始。



受入・分別施設(稼働中)



受入・分別施設(解体中)



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 79.3万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2022年6月30日時点)

土壌貯蔵施設等（双葉②工区）の状況

- 2018年1月に施設の工事に着手。
- 2019年2月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年5月に除去土壌の貯蔵を開始。（2022年4月に貯蔵完了。）
- 2022年5月から施設解体を開始。



受入・分別施設

施設の位置



- ★：受入・分別施設
- ☆：土壌貯蔵施設



土壌貯蔵施設

●貯蔵量 約 92.5 万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積（輸送量ベース）
（2022年6月30日時点）

土壌貯蔵施設（双葉③工区）の状況

- 2018年9月に施設の工事に着手。
- 2019年12月に除去土壌の貯蔵を開始。



土壌貯蔵施設

施設の位置



☆: 土壌貯蔵施設

●貯蔵量 約 51.0万 m^3

※運搬した除去土壌の重量から推計した容積(輸送量ベース)
(2022年6月30日時点)

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の概要

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
規模	仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉)	- 仮設焼却施設： 150 t / 日 × 1 炉 (シャフト炉) - 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (表面熔融炉)	- 仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉) - 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (コークスベット式灰熔融炉)
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約6.8ha
処理開始	2018年2月	2020年3月	2020年3月
処理対象物	- 大熊町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 - 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物	- 双葉町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 - 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 - 中間貯蔵施設内で発生する焼却残さ及び中間貯蔵施設内に搬入した焼却残さ	同左
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPT JV	J F E・前田 JV

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の処理量等

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
処理量 (2022年6月 末まで)	可燃物：207,436トン	可燃物：82,131トン 焼却残渣：60,890トン	可燃物：54,092トン 焼却残渣：49,970トン
焼却灰等の 放射性物質濃 度	焼却灰：5,800～ 180,000Bq/kg ばいじん：12,000～ 290,000Bq/kg	ばいじん：12,000～ 650,000Bq/kg スラグ：9～6,700Bq/kg	ばいじん：1,600～ 360,000Bq/kg スラグ：22～7,200Bq/kg
外観			

廃棄物貯蔵施設の概要

【貯蔵対象物】

- ・主に双葉町仮設灰処理施設で発生したばいじん（鋼製角形容器に封入し、積み上げて貯蔵）

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（2棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）
貯蔵容量	29,280個	14,678個	30,028個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
着工	2018年7月 造成開始 2018年12月 建築開始	2018年6月 造成開始 2018年11月 建築開始	2019年12月 造成開始 2019年12月 建築開始
貯蔵 スケジュール	2020年4月 貯蔵開始	2020年3月 貯蔵開始	廃棄物貯蔵施設（双葉 1工区）貯蔵完了後予定
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理 受注者	鹿島建設		

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）の状況

- 2018年7月に施設の工事に着手。
- 2020年4月に鋼製角形容器に封入した廃棄物の貯蔵を開始。



廃棄物貯蔵施設の外観



廃棄物貯蔵施設内の貯蔵状況

施設の位置



★: 廃棄物貯蔵施設

● **貯蔵量 4,882 個**

※ばいじんを封入した鋼製角形容器の個数

(2022年7月31日時点)

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）の状況

- 2018年6月に施設の工事に着手。
- 2020年3月に鋼製角形容器に封入した廃棄物の貯蔵を開始。



廃棄物貯蔵施設の外観

施設の位置



★：廃棄物貯蔵施設



廃棄物貯蔵施設内の貯蔵状況

●貯蔵量 8,470個

※ばいじんを封入した鋼製角形容器の個数

（2022年7月31日時点）

廃棄物貯蔵施設工事（双葉2工区）の状況

- 2019年12月から建築工事（基礎工）開始
- 2021年3月 廃棄物貯蔵施設完成
- 廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）貯蔵完了後に貯蔵を開始予定



（2021年 3月31日時点）

施設の位置



★：廃棄物貯蔵施設

保管場等への保管量

保管場

(2022年7月16日時点)

	面積(ha)	保管量(m ³)
大熊工区	68.7	1,181,555
双葉工区	24.3	492,388
合計	93.0	1,673,943



灰保管施設

(2022年7月16日時点)

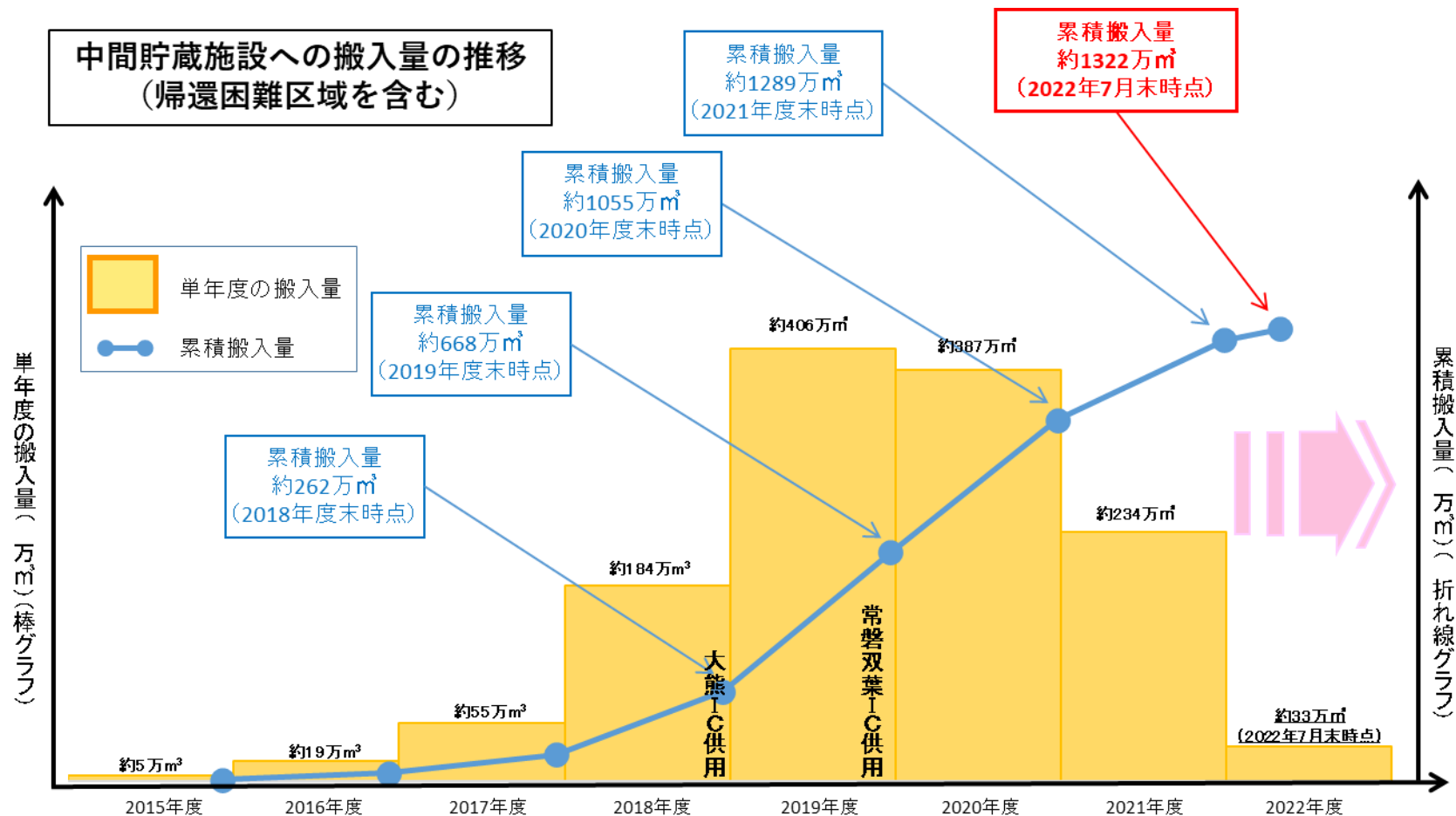
	面積(ha)	保管量(m ³)
大熊工区	2.2	19,313
双葉工区	6.3	130,713
合計	8.5	150,026



輸送・道路交通対策

中間貯蔵施設に係る当面の輸送の状況

- 中間貯蔵施設への搬入にあたっては、安全を第一に、地域の理解を得ながら、輸送を実施する
- これまでに約1,322万 m^3 の除去土壌等(帰還困難区域を含む)を中間貯蔵施設に輸送した(2022年7月末時点)



(注) 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

2022年度の中間貯蔵施設への搬入予定

市町村名	搬入予定量(m ³)※2
南相馬市	10,000
西郷村	57,000(令和4年7月輸送終了)
楢葉町	1,000(令和4年6月輸送終了)
富岡町	22,000
大熊町	73,000
双葉町	30,000
浪江町	224,000
飯舘村※1	395,000
合計	812,000

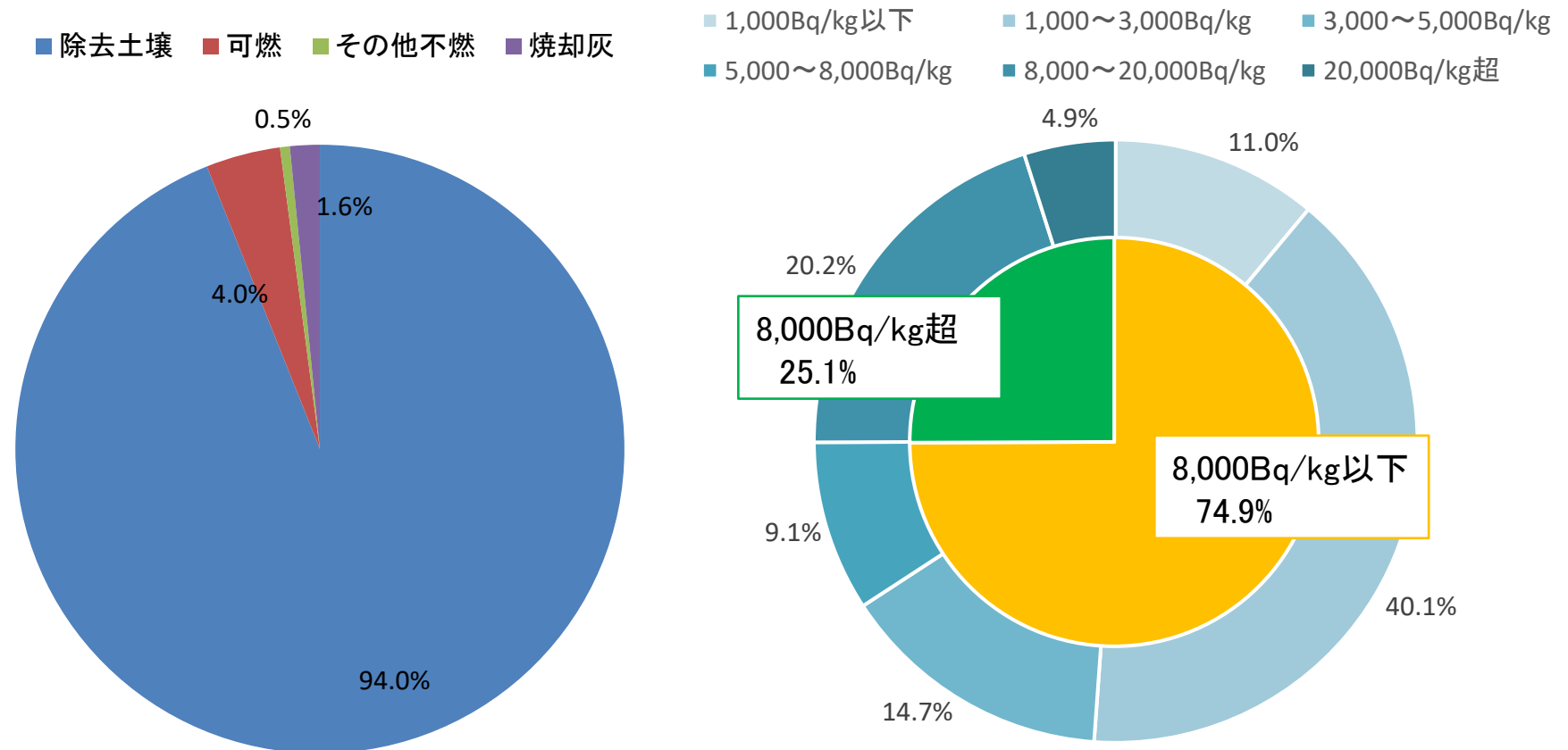
※1 中間貯蔵施設への搬入と、環境再生事業として長泥地区へ運搬する分の両方を含む。濃度測定等の結果、長泥地区の農地のかさ上げ材として活用できないと判断された除去土壌について中間貯蔵施設への搬入を行う。

※2 令和4(2022)年度の実際の搬入量や輸送対象市町村は、下記の要因により変更の可能性がある。

- ・自然災害等が発生した場合。
- ・保管実態等が予定と異なる場合。
- ・年度をまたぐ前倒し・繰越しを行う場合。
- ・輸送対象物が新たに発生する場合。

中間貯蔵施設に搬入した除去土壌等の種類と濃度の分布

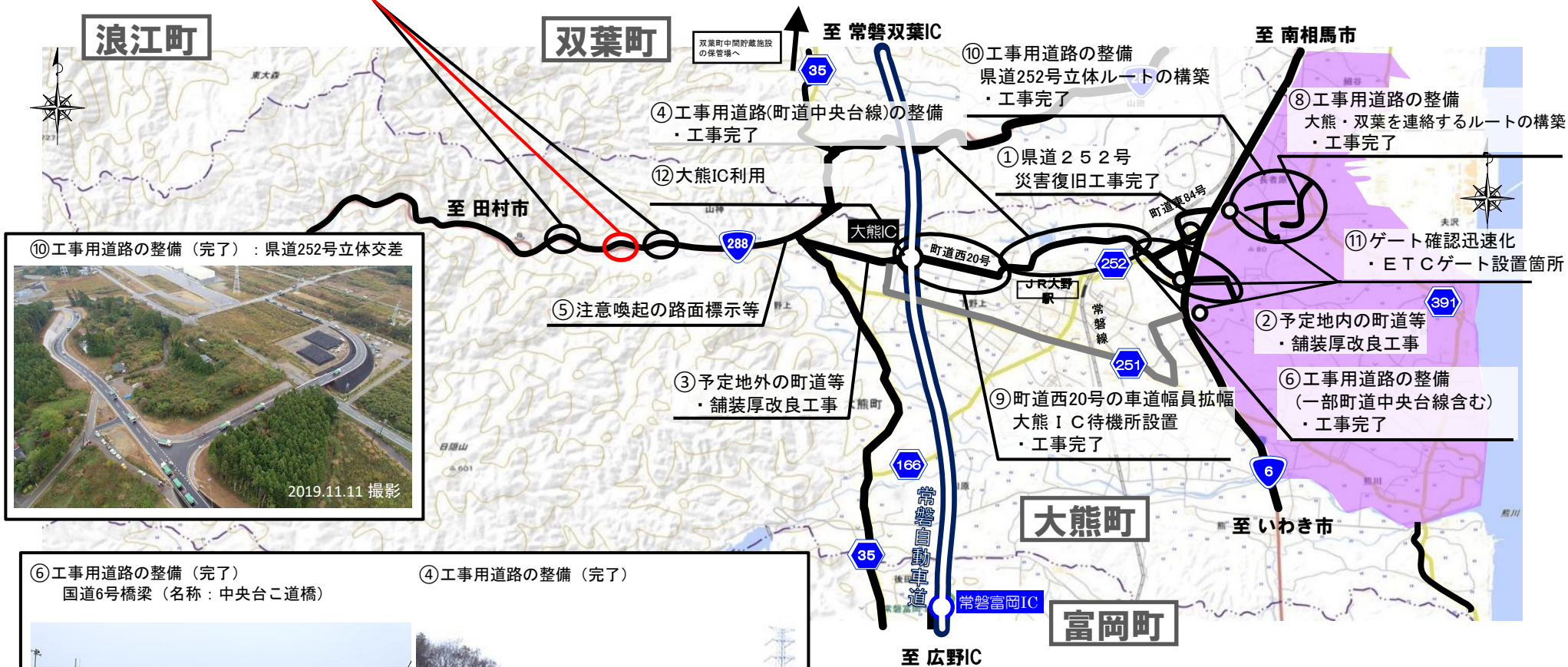
- 2022年7月末までに搬入した除去土壌等のうち、土壌が94.0%であり、可燃物は4.0%、焼却灰1.6%である。
- 除去土壌について、搬出時に仮置場等で測定した表面線量率及び重量によって換算した放射能濃度の分布を見ると、8,000Bq/kg以下が約4分の3を占めている。



※四捨五入の関係で、合計は必ずしも100%とはならない。

輸送ルートと道路交通対策（大熊町）

⑦ 国道288号の見通し改善及び局部改良
・ 工事中（一部完了）



輸送ルート（大熊町）



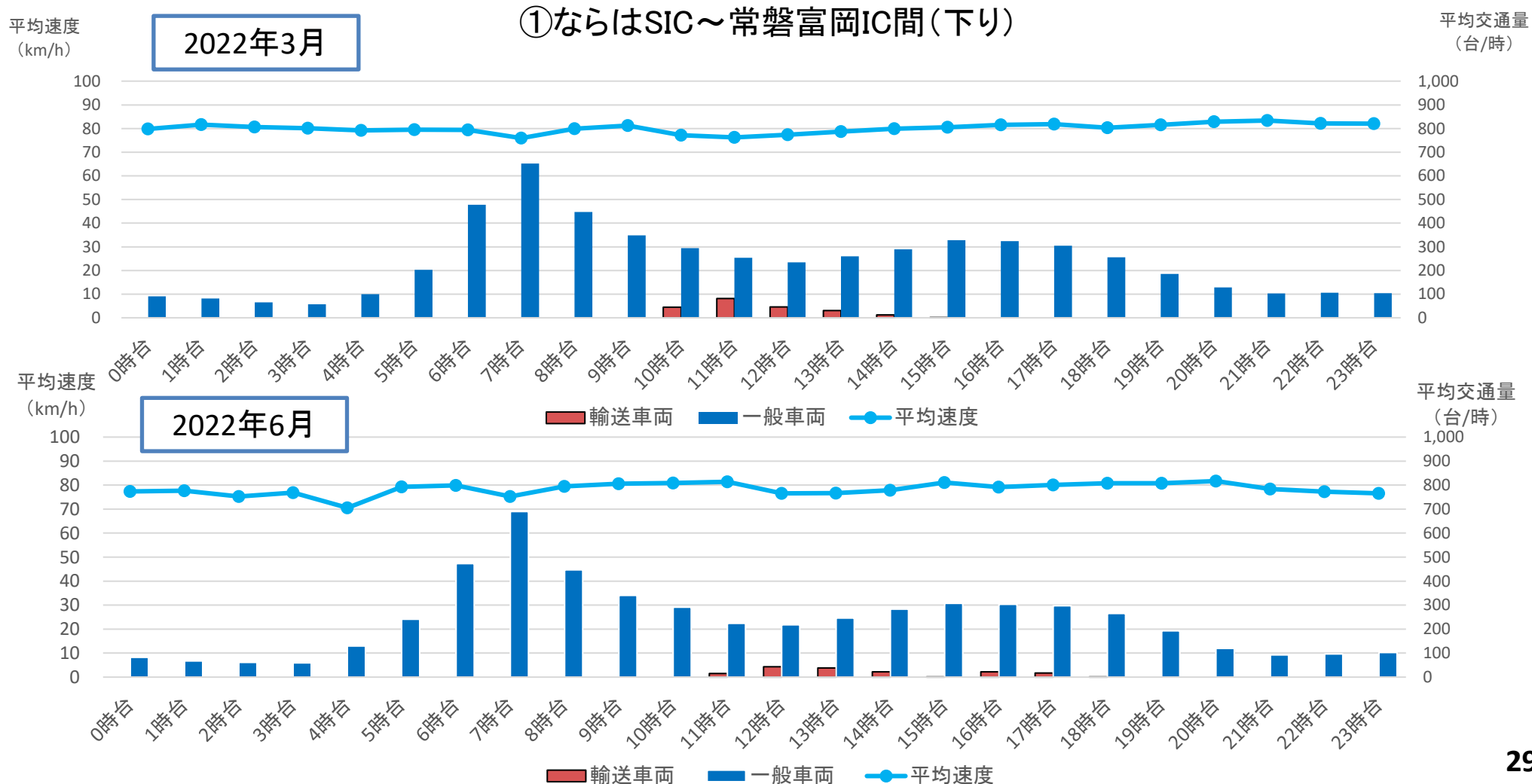
輸送ルートと道路交通対策（双葉町）

輸送ルートの凡例
 輸送ルート
 中間貯蔵施設

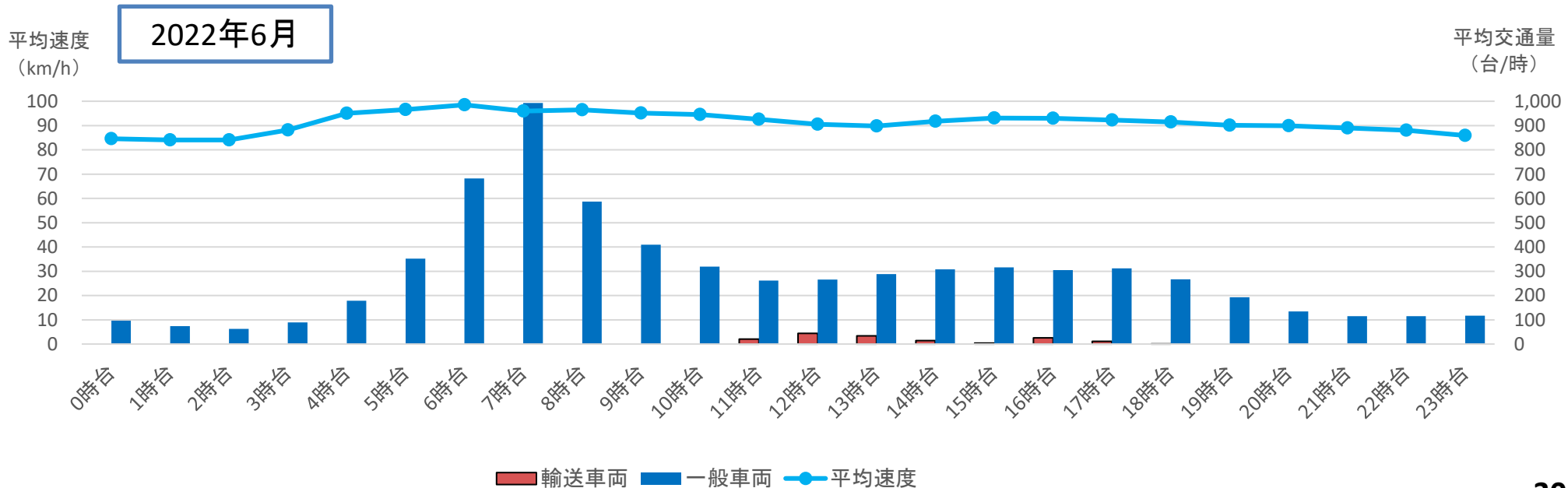
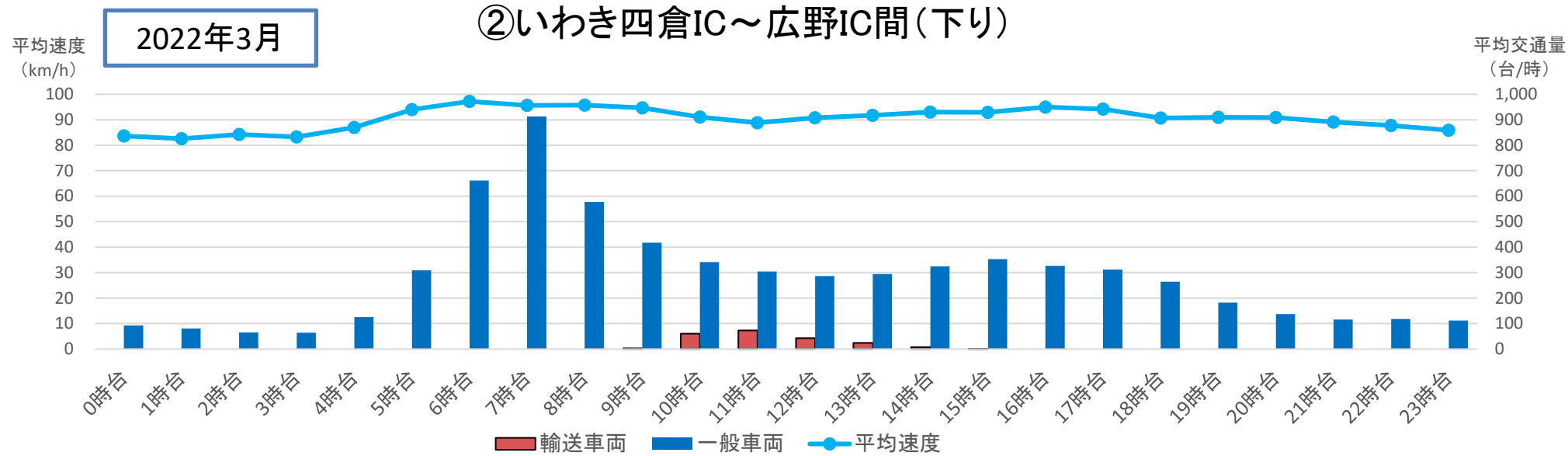


輸送ルート常磐道の交通状況 その1

- 輸送車両が走行するルートの交通量は、6時台～7時台がピークとなっており、その時間帯を避けて輸送している。
- 2022年3月と2022年6月の状況を比較すると、常磐道下り①②および同上り③④はほぼ同程度の平均速度となっている。
- 引き続き、関係機関と連携の上、当該エリアを含む輸送ルートの交通状況を注視していく。

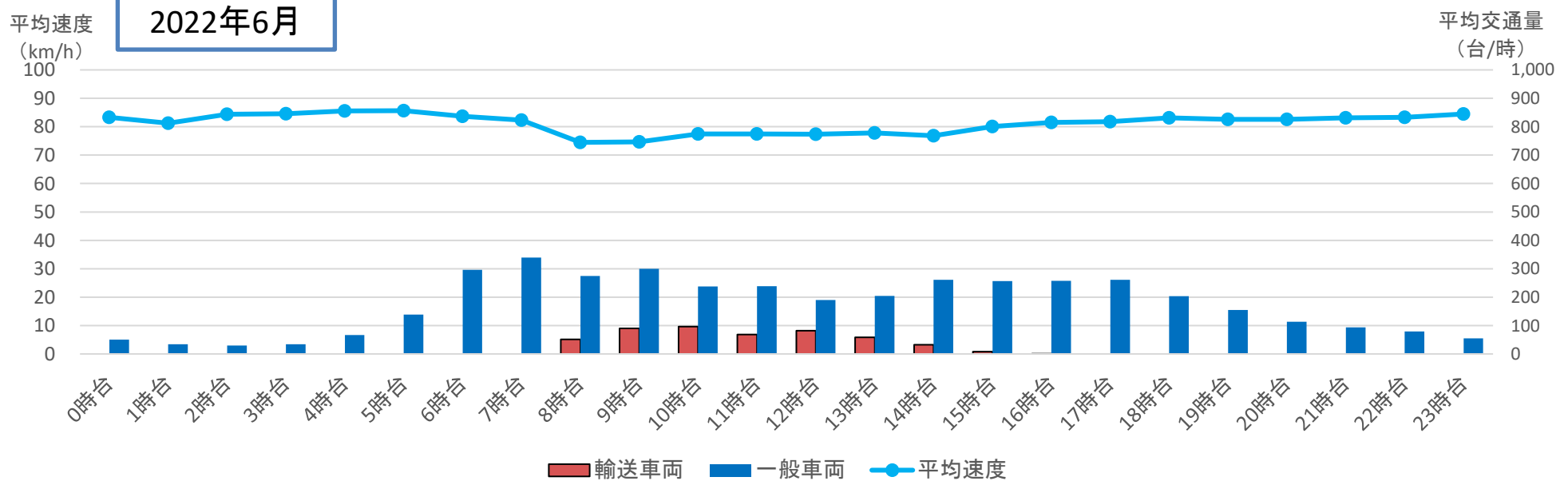
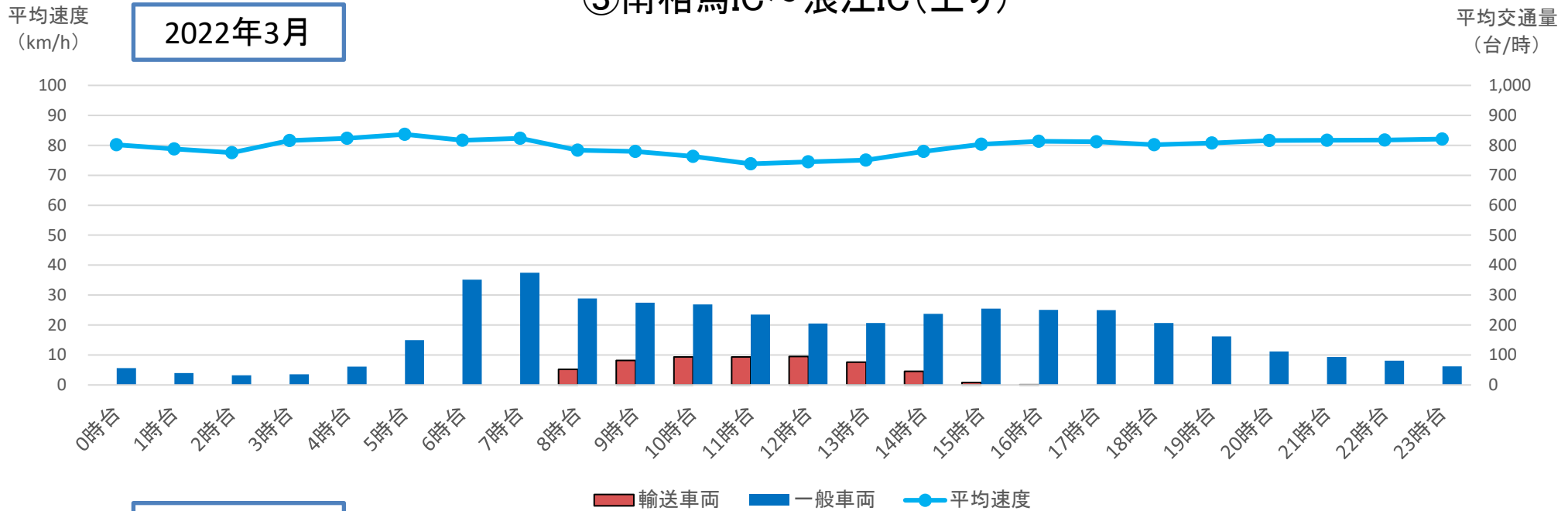


輸送ルート常磐道の交通状況 その2

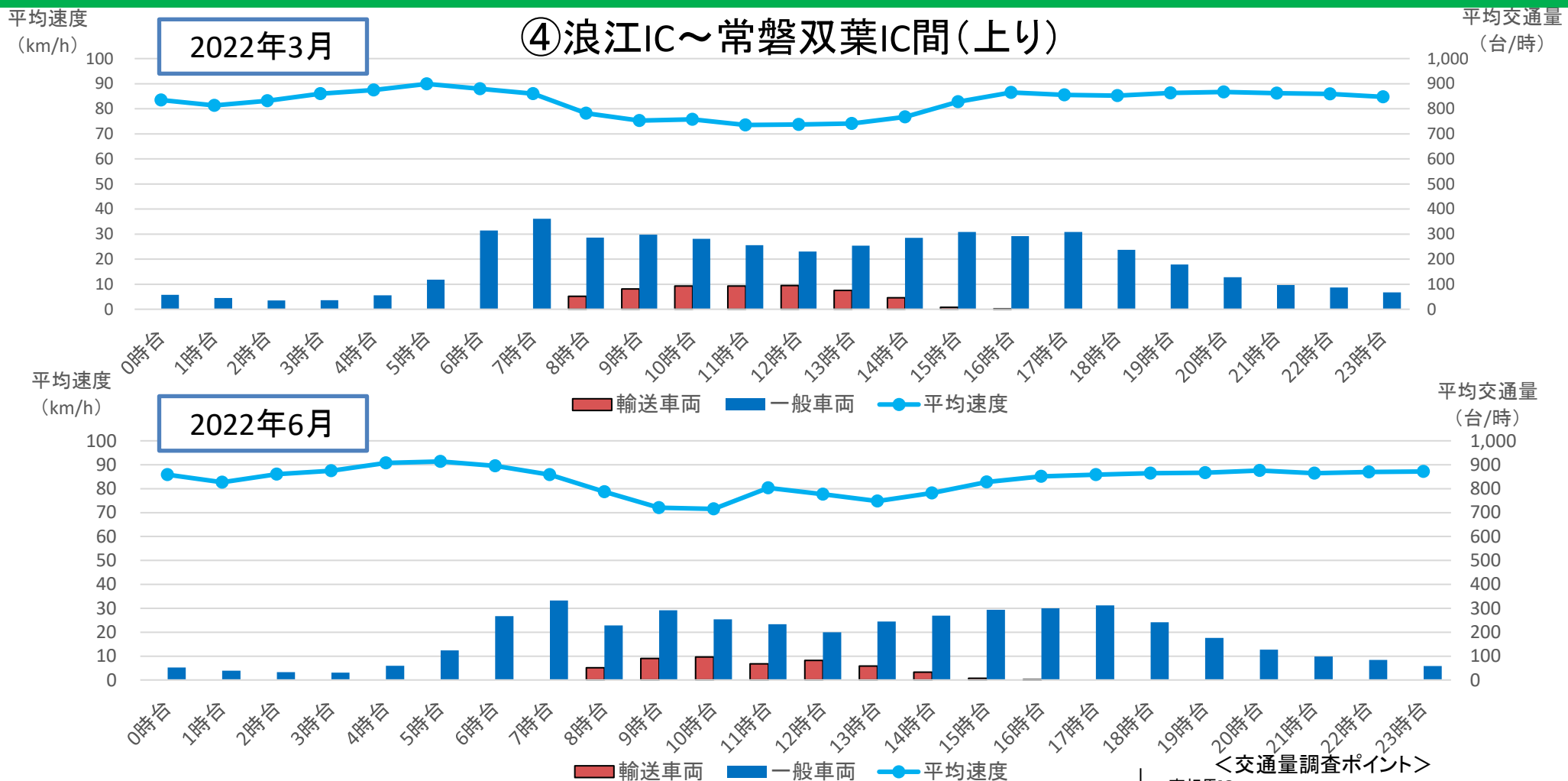


輸送ルート常磐道の交通状況 その3

③南相馬IC～浪江IC(上り)



輸送ルート常磐道の交通状況 その4



※データ集計の条件

○速度データ(NEXCOTラカンデータ)

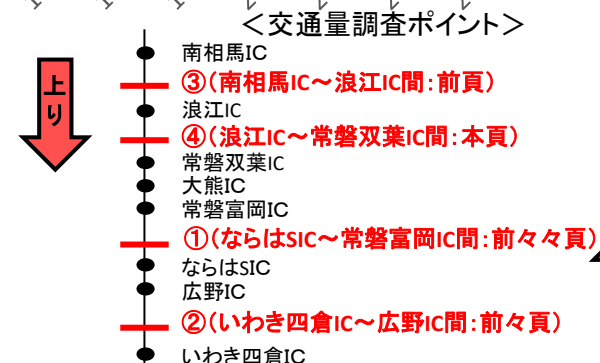
- ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。また、通行止め等の時間帯を控除。

○一般車両(NEXCOTラカンデータ)

- ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。また、通行止め等の時間帯を控除。
- ・1日当たりの平均輸送車両台数を控除。

○輸送車両(輸送課実走行データ)

- ・1日当たりの平均輸送車両台数。また、通行止め等の時間帯を控除。



モニタリング等

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その1）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水中の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月4日～6月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
	大熊②工区、第1期	2022年4月7日～5月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
		2022年5月27日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊②工区、第2期	2022年4月7日～6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	大熊③工区	2022年4月7日～6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	大熊④工区	2022年4月7日～6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.19
	大熊⑤工区	2022年4月7日～6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.21
	双葉①工区、第1期	2022年4月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.24
		2022年5月11日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
	双葉①工区、第2期	2022年4月6日～6月1日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	双葉②工区	2022年4月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.33
		2022年4月26日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.34
● 排気中の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月12日～6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
	大熊②工区、第1期	2022年4月8日～5月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
		2022年5月26日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊②工区、第2期	2022年4月7日～6月2日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	大熊③工区	2022年4月6日～6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	大熊④工区	2022年4月6日～6月1日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.19
	大熊⑤工区	2022年4月4日～6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.21
	双葉①工区、第1期	2022年4月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.24
		2022年5月16日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
	双葉①工区、第2期	2022年4月11日～6月22日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	双葉②工区	2022年4月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.33
		2022年4月28日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.34

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その2）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
☆ 防災調節池の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月20日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
	大熊②工区、第1期	2022年4月7日 ～ 5月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
		2022年5月27日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊②工区、第2期	2022年4月7日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	大熊③工区	2022年4月28日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	大熊④工区	2022年4月7日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.19
	大熊⑤工区	2022年4月7日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.21
	双葉①工区、第1期	2022年4月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.24
		2022年5月11日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
	双葉①工区、第2期	2022年4月6日 ～ 6月1日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	双葉②工区	2022年4月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.33
		2022年4月25日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.34

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その3）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★粉じん濃度	大熊①工区	2022年4月4日～6月6日（月1回）	最大値は1.8mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.5
	大熊②工区、第1期	2022年4月8日～5月13日（月1回）	最大値は3.4mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.7
		2022年5月26,27日（環境モニタリング最終回）	最大値は2.5mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.8
		2022年6月3日（解体中のモニタリング）	最大値は3.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.10
	大熊②工区、第2期	2022年4月8日～6月3日（月1回）	最大値は2.1mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.13
	大熊③工区	2022年4月8日～6月3日（月1回）	最大値は1.7mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.16
	大熊④工区	2022年4月6日～6月1日（月1回）	最大値は1.4mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.19
	大熊⑤工区	2022年4月4日～6月15日（月1回）	最大値は3.6mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.21
	双葉①工区、第1期	2022年4月7日（月1回）	最大値は1.4mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.24
		2022年5月12日（環境モニタリング最終回）	最大値は3.0mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.25
		2022年6月9日（解体中のモニタリング）	最大値は1.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.27
	双葉①工区、第2期	2022年4月7日～6月9日（月1回）	最大値は1.9mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.30
	双葉②工区	2022年4月6日（月1回）	最大値は2.4mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.33
		2022年4月29日（環境モニタリング最終回）	最大値は0.2mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.34
		2022年6月28日（解体中のモニタリング）	最大値は0.7mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.36

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その4）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★空間線量率 （作業環境）	大熊①工区	2022年4月5日～6月7日（月1回）	0.07～0.15μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.5
	大熊②工区、第1期	2022年4月15日～5月13日（月1回）	0.14～0.66μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.7
		2022年5月27日（環境モニタリング最終回）	0.11～0.27μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.8
		2022年6月16日（解体中のモニタリング）	0.12～0.19μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.10
	大熊②工区、第2期	2022年4月15日～6月13日（月1回）	0.09～0.26μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.13
	大熊③工区	2022年4月8日～6月3日（月1回）	0.17～0.22μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.16
	大熊④工区	2022年4月14日～6月15日（月1回）	0.21～0.48μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.19
	大熊⑤工区	2022年4月4日～6月15日（月1回）	0.22～0.53μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.21
	双葉①工区、第1期	2022年4月7日（月1回）	0.18～0.22μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.24
		2022年5月12日（環境モニタリング最終回）	0.12～0.16μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.25
		2022年6月9日（解体中のモニタリング）	0.07～0.09μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.27
	双葉①工区、第2期	2022年4月7日～6月9日（月1回）	0.08～0.14μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.30
	双葉②工区	2022年4月6日（月1回）	0.10～0.20μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.33
		2022年4月28日（環境モニタリング最終回）	0.08～0.15μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.34
		2022年6月28日（解体中のモニタリング）	0.12～0.18μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.36

モニタリング結果概要（受入・分別施設 その5）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★ 空気中の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月5日 ～ 6月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
	大熊②工区、第1期	2022年4月15日 ～ 5月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
		2022年5月27日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊②工区、第2期	2022年4月15日 ～ 6月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	大熊③工区	2022年4月8日 ～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	大熊④工区	2022年4月14日 ～ 6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.19
	大熊⑤工区	2022年4月4日 ～ 6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.21
	双葉①工区、第1期	2022年4月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.24
		2022年5月12日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
	双葉①工区、第2期	2022年4月7日 ～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	双葉②工区	2022年4月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.33
		2022年4月29日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.34
表面汚染密度 （★床★壁★設備）	大熊①工区	2022年4月20日 ～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.5
	大熊②工区、第1期	2022年4月15日 ～ 5月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
		2022年5月27日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.8
	大熊②工区、第2期	2022年4月15日 ～ 6月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	大熊③工区	2022年4月8日 ～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.16
	大熊④工区	2022年4月14日 ～ 6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.19
	大熊⑤工区	2022年4月4日 ～ 6月15日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.21
	双葉①工区、第1期	2022年4月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.24
		2022年5月23日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
	双葉①工区、第2期	2022年4月9日 ～ 6月23日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.30
	双葉②工区	2022年4月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.33
		2022年4月28日（環境モニタリング最終回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.34

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その1）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水（井戸）中の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月4日～ 6月27日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	大熊②工区	2022年4月7日～ 6月30日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.42
	大熊③工区	2022年4月7日～ 6月30日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.44
	大熊④工区	2022年4月7日～ 6月30日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.46
	大熊⑤工区	2022年4月7日～ 6月30日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.48
	双葉①工区東側	2022年4月7日～ 6月2日（月1回※）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 ※貯蔵作業が終了したため、2020年4月から月1回の測定としている。	資料1別添 P.50
	双葉①工区西側	2022年4月6日～ 6月29日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.52
	双葉②工区	2022年4月7日～ 6月30日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉③工区	2022年4月4日～ 6月27日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.57
● 地下水（集排水設備）中の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月4日～ 6月7日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	大熊②工区	2022年4月21日～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.42
	大熊③工区	2022年4月21日～ 6月16日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.44
	大熊④工区	2022年4月21日～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.46
	大熊⑤工区	2022年4月21日～ 6月23日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.48
	双葉①工区東側	2022年4月7日～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.50
	双葉①工区西側	2022年4月7日～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.52
	双葉②工区	2022年4月8日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉③工区	2022年4月7日～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.57

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その2）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
■ 処理水放流先河川の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月5日～ 6月7日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.39
	大熊②工区	2022年4月7日～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.42
	大熊③工区	2022年4月7日～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.44
	大熊④工区	2022年4月7日～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は、Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～1.1Bq/Lの範囲であった。	資料1別添 P.46
	大熊⑤工区	2022年4月5日～ 6月17日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～1.1Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≤1）を下回った。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.48
	双葉①工区東側	2022年4月7日～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度は、貯蔵作業が終了したため測定なし。	資料1別添 P.50
	双葉①工区西側	2022年4月6日～ 6月1日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は、Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～1.2Bq/Lの範囲であった。	資料1別添 P.52
	双葉②工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.55
	双葉③工区	2022年4月12日～ 6月13日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（週1回）は、Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～1.9Bq/Lの範囲であった。	資料1別添 P.57
河川最下流における放射性セシウムの測定結果	前田川	2022年6月16日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
	細谷川	2022年6月16日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
	陳場沢川	2022年6月17日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
	夫沢川	2022年6月16日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
	小入野川	2022年6月17日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.102
	熊川	2022年6月16日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.102

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その3）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★ 粉じん濃度	大熊①工区	2022年4月5日～ 6月7日（月1回）	最大値は0.8mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.39
	大熊②工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	最大値は2.2mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.42
	大熊③工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	最大値は0.6mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.44
	大熊④工区	2022年4月6日～ 6月1日（月1回）	最大値は0.7mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.46
	大熊⑤工区	2022年4月4日～ 6月17日（月1回）	最大値は1.0mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.48
	双葉①工区西側	2022年4月7日～ 6月9日（月1回）	最大値は0.4mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.52
	双葉②工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	最大値は0.1mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.55
	双葉③工区	2022年4月12日～ 6月13日（月1回）	最大値は0.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.57
★ 空間線量率 （作業環境）	大熊①工区	2022年4月6日～ 6月4日（月1回）	0.09 ～ 0.49μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.39
	大熊②工区	2022年4月18日～ 6月14日（月1回）	0.20 ～ 0.90μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.42
	大熊③工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	0.14 ～ 0.87μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.44
	大熊④工区	2022年4月13日～ 6月17日（月1回）	0.28 ～ 2.66μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.46
	大熊⑤工区	2022年4月4日～ 6月28日（月1回）	0.29 ～ 0.86μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.48
	双葉①工区西側	2022年4月7日～ 6月9日（月1回）	0.15 ～ 1.76μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.52
	双葉②工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	0.26 ～ 0.74μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.55
	双葉③工区	2022年4月21日～ 6月20日（月1回）	0.23 ～ 2.27μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.57

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その4）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★ 空気中の放射能濃度	大熊①工区	2022年4月6日～ 6月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	大熊②工区	2022年4月18日～ 6月14日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.42
	大熊③工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.44
	大熊④工区	2022年4月13日～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.46
	大熊⑤工区	2022年4月4日～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.48
	双葉①工区西側	2022年4月7日～ 6月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.52
	双葉②工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉③工区	2022年4月12日～ 6月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.57
表面汚染密度 （★床★境界・壁★設備 ★重機）	大熊①工区	2022年4月19日～ 6月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.39
	大熊②工区	2022年4月18日～ 6月14日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.42
	大熊③工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.3744
	大熊④工区	2022年4月13日～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.46
	大熊⑤工区	2022年4月4日～ 6月28日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.48
	双葉①工区西側	2022年4月25日～ 6月24日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.52
	双葉②工区	2022年4月7日～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.55
	双葉③工区	2022年4月21日～ 6月20日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.57

双葉③工区放流水中の溶解性マンガンについて（１）

経過等

- 令和4年2月17日に、福島県が実施した土壌貯蔵施設の浸出水の処理後放流水に係る排水基準項目測定（同年1月25日採取）において、溶解性マンガン濃度が11mg/L（指針に基づく基準値：10mg/L）であったとの報告があった。
- これまで、追加的なモニタリングを継続するとともに、有識者の協力を得ながら対応について検討を行ってきた。

追加的なモニタリングの結果

- 2月18日、3月30日、4月26日、5月23日～27日（5日間連続）及び6月28日の測定結果は下表のとおり。

溶解性マンガンの測定結果 （単位：mg/L）

区 分	2/18	3/30	4/26	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	6/28
① 西集水ピット内	－	16	16	13	10	7.2	12	6.3	19
② 東集水ピット内	－	<0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3	2.5
③ 凝集沈殿前（系統1）	－	6.8	3.7	3.1	3.2	3.4	3.4	3.4	7.4
④ 凝集沈殿前（系統2）	－	7.2	4.3	4.0	4.1	4.0	4.2	4.2	8.6
⑤ 放流槽①内	－	3.9	2.4	3.0	2.9	3.0	2.8	3.2	5.3
⑥ 放流槽②内	－	3.9	2.4	2.7	2.9	3.0	2.9	3.1	5.5
⑦ 放流水	7.3	3.9	2.3	2.1	2.8	3.0	2.9	3.1	5.6

※①～⑦の位置については、「（参考）土壌貯蔵施設の浸出水の処理フロー」に示す。

- ・ 埋立量の多い区画（双葉③工区西側及び双葉①工区東側）の浸出水が流入する西集水ピット内の溶解性マンガン濃度は、測定期間中6.3mg/L～19mg/Lとなっており、変動が見られる。
- ・ 埋立量の少ない双葉③工区東側区画の浸出水が流入する東集水ピット内については、低濃度で推移。
- ・ 被覆工施工済の双葉①工区東側区画からの送水を5日間連続測定の期間中（5月24日）に実施したが、処理系統中の溶解性マンガン濃度に目立った上昇は見られない。なお、同区画からの浸出水（原水）中の濃度は、17mg/Lであった（5月24日採取）。
- ・ 処理後の水は、処理前水と比較して総じて溶解性マンガン濃度が低い。
- ・ 放流水中の溶解性マンガン濃度は2.1～7.3mg/Lとなっており、基準値内で推移している。

双葉③工区放流水中の溶解性マンガンについて（2）

現時点での原因究明状況及びこれまでの対応

- 双葉③工区の降水量や浸出水発生量、双葉①工区東側区画からの浸出水の送水量、浸出水処理系統の各所における溶解性マンガン濃度の追加調査等を行い、有識者の意見等を踏まえつつ原因究明を図ってきた。
- 福島県内の土壌はマンガンを豊富に含むものが多く、除去土壌の貯蔵量が増加する中で、溶解性マンガンの溶出量も基本的には増加していくと見込まれる。他方、埋立中の土壌貯蔵施設の浸出水中の溶解性マンガン濃度は、埋立中の区画に降った雨の量に影響されると考えられる。
- 溶解性マンガン濃度が11mg/Lとなった1月25日については、直近2週間にわたって降雨がない状況であり、また双葉③工区東側区画も埋立開始前であったため、浸出水中の溶解性マンガン濃度が高まりやすい状況にあった。なお、双葉①工区からの送水は貯水量に対して小さく、処理水に影響する直近の送水は1月13日であったことから、主たる要因とは考えにくい。これらを踏まえると、前述の要因によって埋立期間中に一時的に高まった溶解性マンガン濃度が、浸出水処理設備を経てもなお指針の基準値を上回る状況となったものと推定される。
- 降水量の変化に伴う処理前水の水質変動の緩和を目的として、降雨量が著しく多い時のみ使用していた調整槽について、4月12日から常時使用を開始した。

今後の対応

- 今後、貯蔵量の増加、被覆工の実施等に伴って、処理設備に流入する浸出水中の溶解性マンガン濃度が再度10mg/Lを超える可能性があると考えられる。
- 放流水中の溶解性マンガン濃度を低減させるための設備（アルカリ凝集沈殿※等）の設置について、引き続き検討していく。

※アルカリ凝集沈殿：水のpHを高めることによって金属の水酸化物を生成させ、凝集剤によって除去するもの

双葉③工区放流水中の溶解性マンガンについて（参考）



【拡大図】



★:施設の位置



【凡例】

◆ : 溶解性マンガン測定用
試料の採取地点

双葉③工区放流水中の溶解性マンガンについて（参考）

（参考） 土壌貯蔵施設の浸出水の処理フロー

流入



双葉①工区東側区画



双葉③工区西側区画



双葉③工区東側区画

- 双葉③工区の浸出水処理施設では、③工区に加え、双葉①工区東側区画の浸出水も処理

集水



双葉①工区東集水ピット



双葉③工区西集水ピット



双葉③工区東集水ピット

- 各区画の集水ピットで浸出水を集水

調整

調整槽



調整槽（底部連結部）



- 集められた水は調整槽に送水
- 4月12日から3槽すべて使用開始

水処理

凝集沈殿槽



砂ろ過塔



- 調整槽以降2つの系統にて処理
- 凝集沈殿と砂ろ過により浸出水を処理

水質監視

水質監視槽



- 処理後水は水質監視槽、放流槽を経て放流配管へ送水

放流

採水用蛇口



放流先水路



- 放流配管から水路へ放流

（参考） マンガンについて

- マンガンは土壤中に普遍的に存在する物質である。
- 飲用水においては、マンガンは浄水処理の過程で除去されている。これらのことから、マンガンについて水質環境基準は設けられていない。
- 排水基準は、水の着色や沈殿物の析出等を防止する観点から、主に利水面に配慮して設定されている。

モニタリング結果概要（仮設焼却施設 大熊町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/Nm ³)未満であることを確認した。	資料1別添 P.114
地下水(井戸)中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.114
雨水(雨水排水集水桝)中の放射能濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.114
空間線量率	大熊町仮設焼却施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（毎日）	0.30～ 2.87 μ Sv/hの範囲であった。	資料1別添 P.114
粉じん濃度	大熊町仮設焼却施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	最大値は4.8mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業(10mg/m ³ 超)に該当しない。	資料1別添 P.114

モニタリング結果概要（仮設処理施設 双葉町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/Nm ³)未満であることを確認した。	資料1別添 P.116
地下水(井戸)中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.116
雨水(雨水排水集水桝)中の放射能濃度	双葉町仮設処理施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P.116
空間線量率	双葉町仮設処理施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（毎日）	0.12 ～ 0.35 μ Sv/h の範囲であった。	資料1別添 P.116
粉じん濃度	双葉町仮設処理施設	2022年3月1日 ～2022年6月30日（月1回）	最大値は1.64mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業(10mg/m ³ 超)に該当しない。	資料1別添 P.116

モニタリング結果概要（廃棄物貯蔵施設）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水中の放射能濃度	大熊1工区	2022年4月1日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.60
	双葉1工区	2021年4月1日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.62
★ 空間線量率 （作業環境）	大熊1工区	2022年4月28日 ～ 6月24日（月1回）	0.06 ～ 3.86μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.60
	双葉1工区	2022年4月28日 ～ 6月24日（月1回）	0.14 ～ 5.88μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.62
表面汚染密度 （★床★壁）	大熊1工区	2022年4月28日 ～ 6月17日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.60
	双葉1工区	2022年4月15日 ～ 6月24日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.62

モニタリング結果概要（技術実証フィールド）

主な測定項目	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水中の放射能濃度	2022年4月7日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.65
● 排気中の放射能濃度	2022年4月21日 ～ 6月8日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.65
★ 沈砂池からの放流水の放射能濃度	2022年4月6日 ～ 6月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.65
■ 処理水放流先河川の放射能濃度	2022年4月7日 ～ 6月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 なお、処理水の放射能濃度（放流時）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.65
★ 粉じん濃度	2022年4月22日 ～ 6月3日（月1回）	全て定量下限値未満（0.1mg/m ³ ）であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.65
★ 空間線量率（作業環境）	2022年4月21日 ～ 6月7日（月1回）	0.08 ～ 0.53μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.65
★ 空気中の放射能濃度	2022年4月21日 ～ 6月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.65
表面汚染密度（★床 ★壁 ★設備）	2022年4月21日 ～ 6月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.65

モニタリング結果概要（飛灰洗浄処理技術等実証施設）

主な測定項目	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水（井戸）中の放射能濃度	2022年4月13日 ～ 6月7日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.68
● 排気中の放射能濃度	2022年4月26日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.68
★ 粉じん濃度	2022年4月27日 ～ 6月9日（月1回）	全て定量下限値未満（0.1mg/m ³ ）であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.68
★ 空間線量率（作業環境）	2022年4月27日 ～ 6月10日（月1回）	0.09 ～ 0.24μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.68
★ 空気中の放射能濃度	2022年4月27日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.68
表面汚染密度（★床 ★壁 ★設備）	2022年4月27日 ～ 6月10日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.68

その他の空間線量率、放射能濃度等の測定結果

測定項目	対象期間	概要	詳細
保管場等における空間線量率、地下水中放射能濃度	2022年4月1日～6月30日	空間線量率は、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵、除去土壌等を用いた実証事業及び溶融飛灰を用いた試験等による周辺への影響は見られなかった。地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.118～120
中間貯蔵施設区域境界における大気中放射能濃度、空間線量率	2022年4月1日～6月30日	大気中放射能濃度は、全て検出下限値未満であり、基準（Cs134の濃度/20+Cs137の濃度/30 $\leq$ 1）を下回った。空間線量率は、通常の変動の範囲内で推移していることを確認した。	資料1別添 P.121,122
輸送路における放射線量率	2022年4月1日～5月31日	輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。	資料1別添 P.124,125
仮置場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率	2022年4月1日～6月30日	全輸送車両が除去土壌の収集・運搬に係るガイドラインの基準の100 μ Sv/hを十分に下回った。（表面線量率が30 μ Sv/hを超える大型土のうを積載した車両について測定を実施）	資料1別添 P.127
中間貯蔵施設退出時の輸送車両の表面汚染密度	2022年4月1日～6月30日	全輸送車両が退出基準の13,000cpmを十分に下回った。	資料1別添 P.128
中間貯蔵施設区域境界（ゲート付近等）における空間線量率、表面汚染密度	2022年6月	空間線量率（1m、表面）及び表面汚染密度の測定結果において、低い数値となっていることを確認した。	資料1別添 P.129

作業員の被ばく線量①

- 仮置場等及び中間貯蔵施設の作業員、輸送車両の運転者等、全ての業務従事者の被ばく線量が、電離則及び除染電離則で定められた限度(5年間で100mSvかつ1年間で50mSv等)を超えないよう、各工事の受注者が管理している。具体的には、安全を見込んだ自主的な目安値(年間20mSvよりも低い数値)を設定し、管理している。
- 環境省は、各受注者が管理する作業員の被ばく線量の情報を収集・分析し、管理が適切に実施されていることを確認している。

2022年度の被ばく線量値集計結果



作業員の累積被ばく線量の分布(2022年4月1日～5月31日)

※上記グラフは、2022年度に中間貯蔵施設事業ならびに減容化事業に従事者登録された作業員の人数を示す。

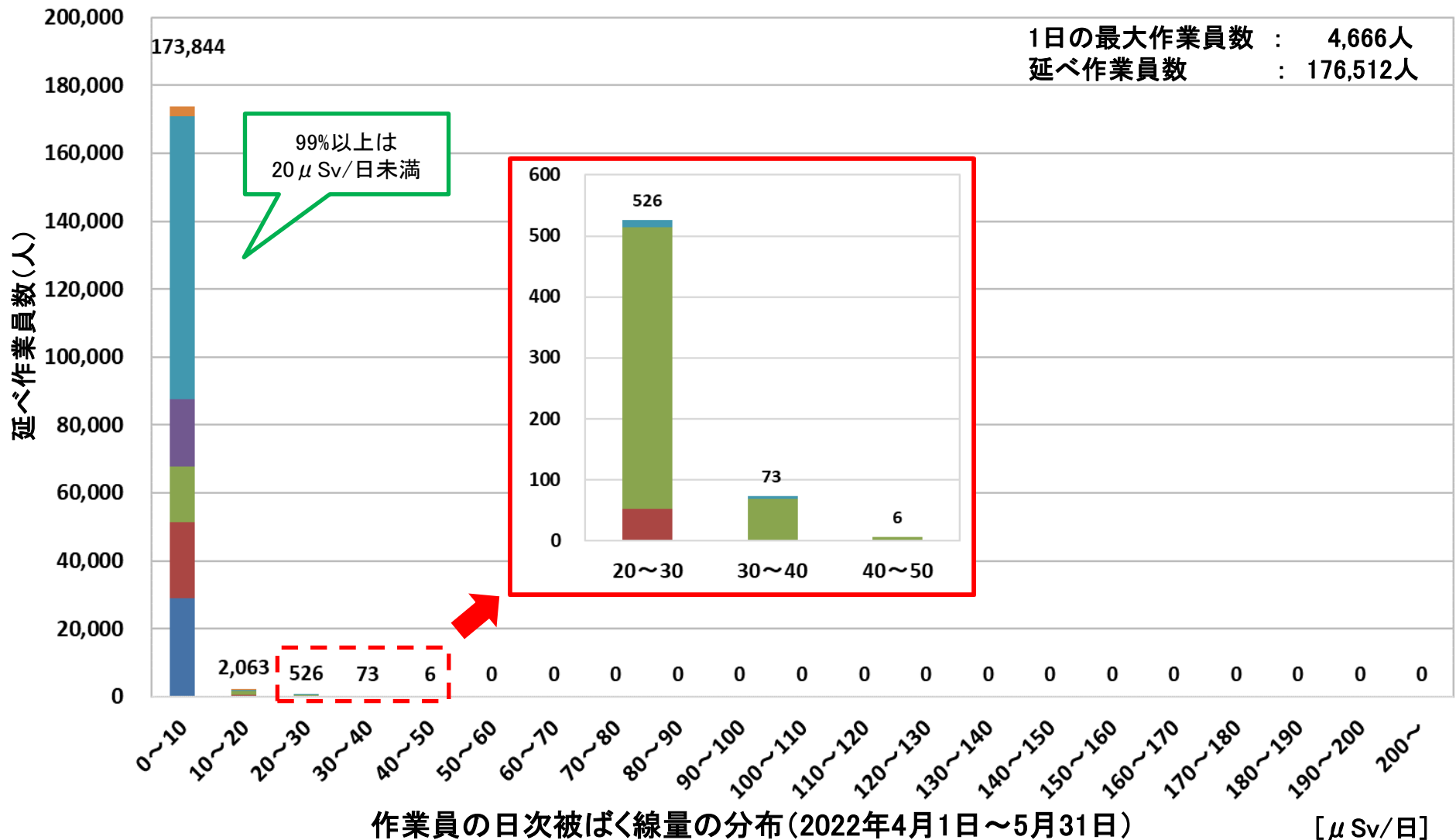
※中間貯蔵施設事業による被ばく線量に限ると、2018年～2021年度の年度別の累積被ばく線量の最大値は、それぞれ10.3mSv、6.3mSv、4.7mSv、4.0mSv。2022年度(5月末まで)は0.80mSv。

2018～2021年度毎の線量値集計結果

単位: mSv	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	集計単位: 人
20以上	0	0	0	0	0
19以上20未満	2	0	0	0	2
18以上19未満	1	5	1	0	7
17以上18未満	0	3	2	0	5
16以上17未満	0	5	1	2	8
15以上16未満	2	8	2	0	12
14以上15未満	1	3	1	1	6
13以上14未満	4	4	2	1	11
12以上13未満	5	7	6	3	21
11以上12未満	8	9	3	3	23
10以上11未満	3	5	2	0	10
9以上10未満	8	6	1	2	17
8以上9未満	6	2	2	3	13
7以上8未満	9	4	7	1	21
6以上7未満	24	9	3	1	37
5以上6未満	26	16	1	2	45
4以上5未満	31	23	10	3	67
3以上4未満	87	76	17	11	191
2以上3未満	210	179	105	112	606
1以上2未満	607	638	714	769	2728
0以上1未満	9856	10131	10437	10528	40952

作業員の被ばく線量②

■ 管理・監督者等 ■ 仮置場作業員 ■ 保管場作業員 ■ 運転者 ■ 施設作業員 ■ その他



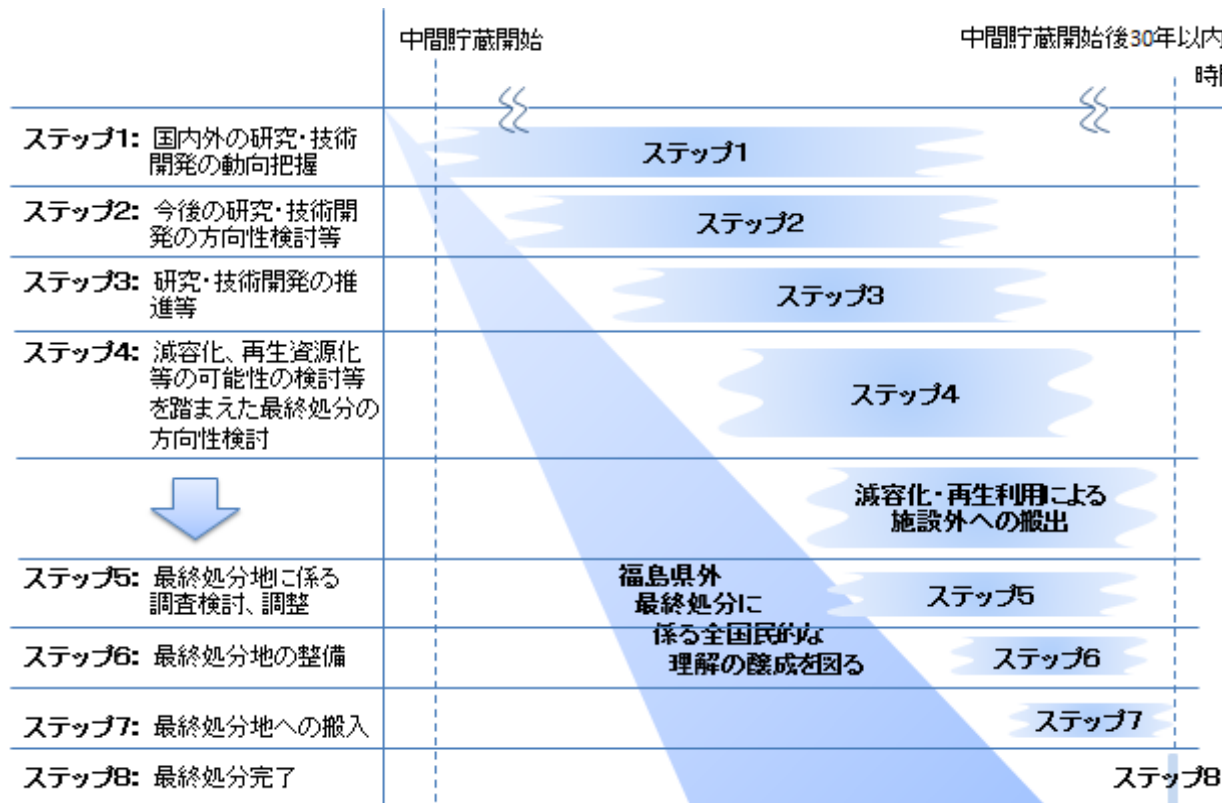
※作業員数は、登録された作業員の延べ人数を示す。

県外最終処分の実現に向けた取組

中間貯蔵開始後30年以内の県外最終処分について

- 福島県外での最終処分に向け、8つのステップに沿って取組を進めていく。
- 具体的には、放射能の物理的減衰を踏まえつつ、幅広く情報収集しながら、まずは、研究・技術開発、減容化・再生資源化等の可能性を踏まえた最終処分の方向性の検討等に取り組む。
- 並行して、情報発信等を通じて、低濃度生成物の再生利用と県外最終処分に係る全国民的な理解の醸成を図る。

最終処分に向けた8つのステップについて

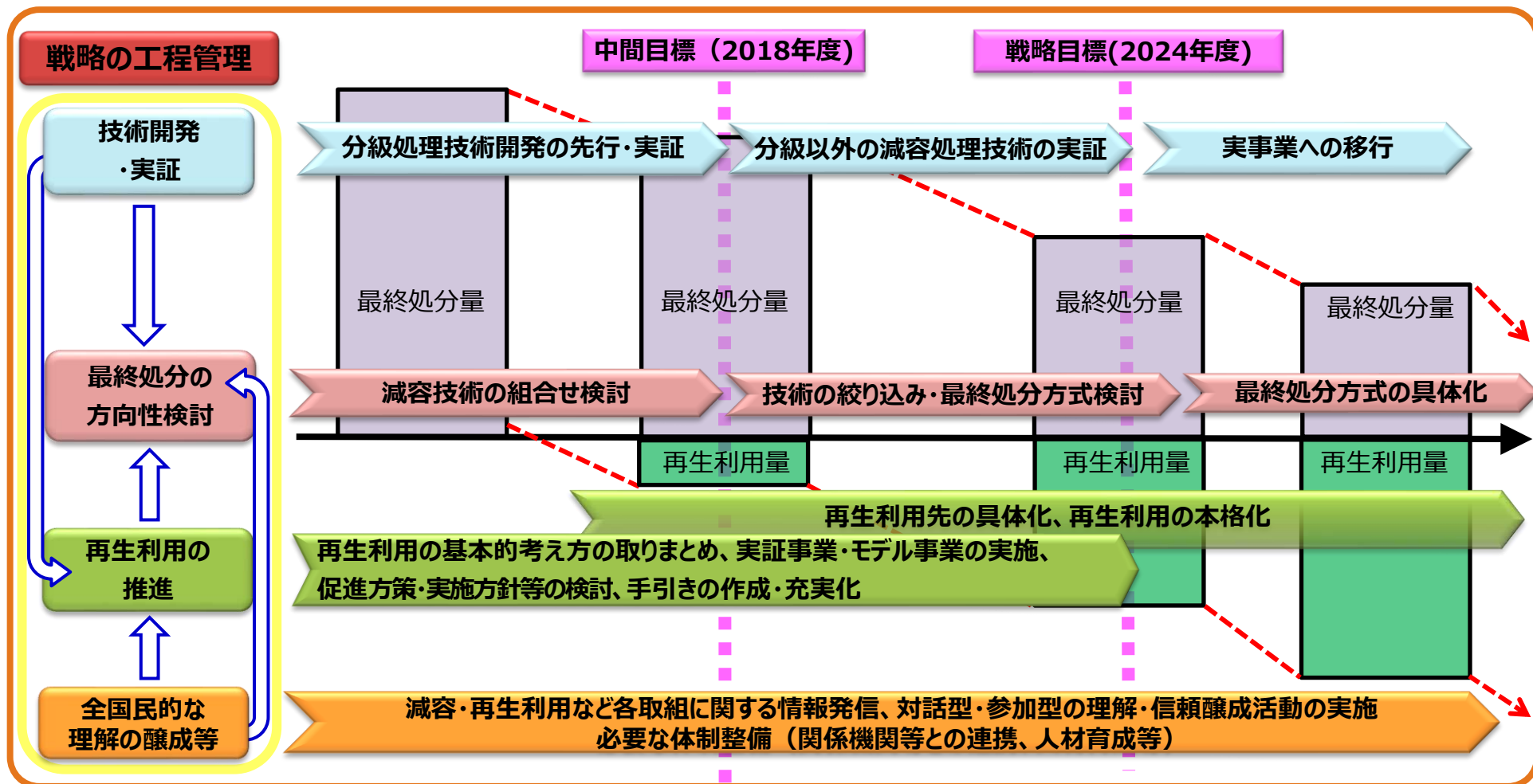


(参考) 日本環境安全事業株式会社法の一部改正法附帯決議(抄)

- 一 (略)・・・中間貯蔵開始後三十年以内に福島県外での最終処分完了を確実に実行することが政府に課せられた法的責務であることを十分に踏まえつつ、環境省を中心に政府は(略)・・・必要な措置の具体的な内容と各ステップの開始時期を明記した工程表を作成するとともに、その取組の進捗状況について毎年、国会に報告すること。

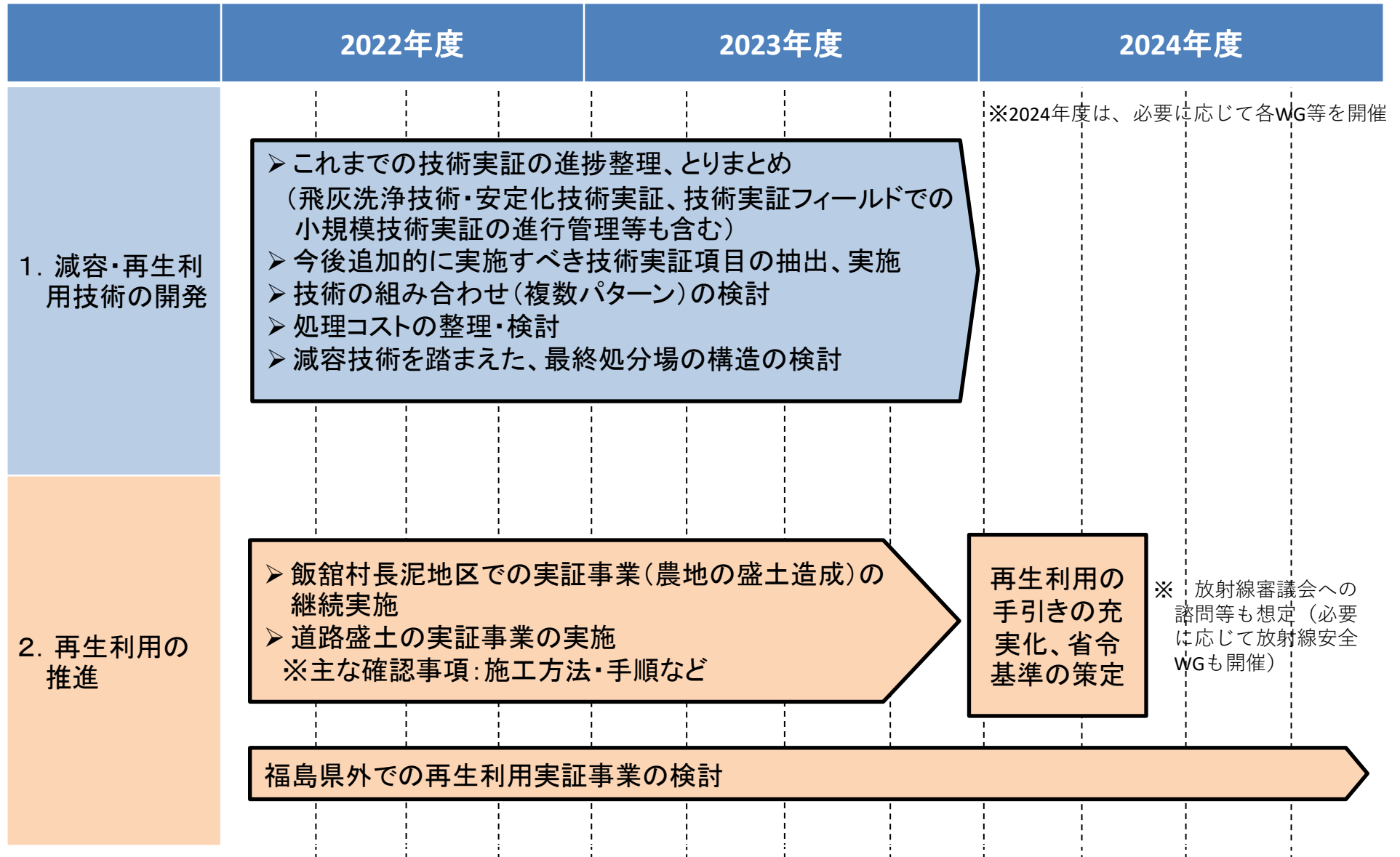
中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略

- 減容処理技術の開発や再生利用の推進等の中長期的な方針として「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略」及び「工程表」を2016年4月に取りまとめ、2019年3月に見直し。
- 「技術開発戦略」及び「工程表」に沿って、戦略目標年（2024年度）までに基盤技術の開発を進めるとともに、除去土壌等の再生利用を推進。また、技術開発の進捗状況や再生利用の将来見込みを踏まえて、最終処分場の構造・必要面積等について一定の選択肢を提示。



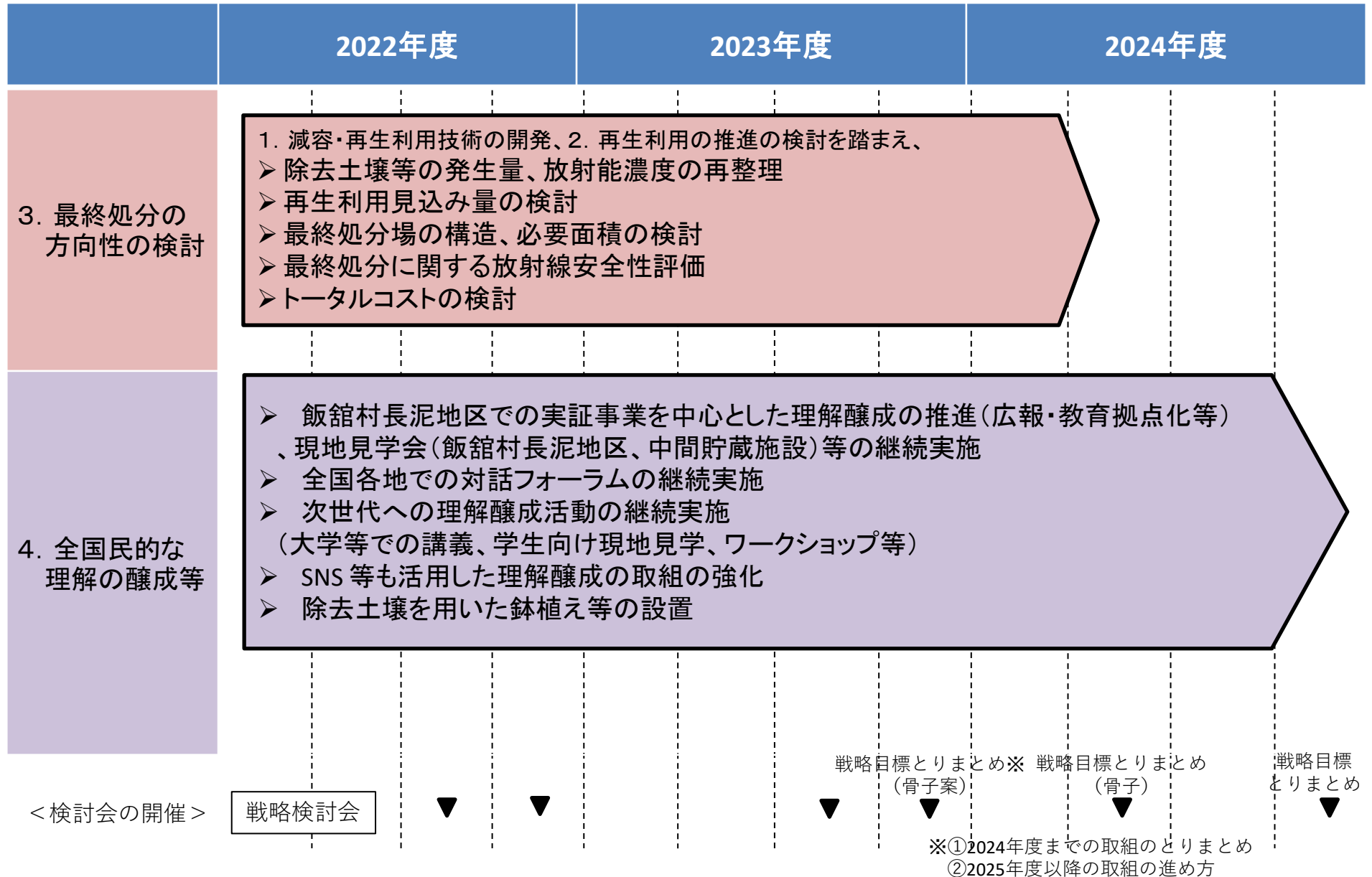
2024年度戦略目標とりまとめに向けたスケジュール案①

< 第13回中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会 資料3を一部加工 >



2024年度戦略目標とりまとめに向けたスケジュール案②

< 第13回中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会 資料3を一部加工 >



中間貯蔵施設における除去土壌等の再生利用方策検討WGの設置

< 中間貯蔵施設における除去土壌等の減容・再生利用方策検討ワーキンググループ（第14回）資料1－2を一部加工 >

目 的

- 平成28年(2016年)に策定した中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略及び工程表において、令和6年度(2024年度)を戦略目標として減容・再生利用に関する基盤技術の開発を進めていくこととしている。
- 再生資材化した除去土壌を安全に利用する方策について検討するため、「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会」の下に「中間貯蔵施設における除去土壌等の再生利用方策検討ワーキンググループ」(以下「WG」という。)を設置する。

検討内容

- 実証事業等で得られた知見の整理・評価
- 中間貯蔵除去土壌等を再生資材化し、安全に利用する方策の検討
- その他

スケジュール

- 8月3日 第1回WG
- 令和5年度を目途に成果をとりまとめ、「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会」に報告する。

再生利用の手引きの作成に向けて

再生利用先である公共事業の実施者等の意見等も踏まえながら、実践的な手引きを作成する。そのため、以下の具体的な取組を進める。

具体的な取組

○関係省庁や専門家の協力を得ながら、道路盛土や農地造成への、除去土壌等の再生利用実証事業を進め、実際に現場施工する際の課題や対応方策等を整理する。

○これまで実施してきた福島県内での再生利用実証事業に加え、理解醸成の観点を含めて、福島県外においても除去土壌等の再生利用実証事業を行う。

具体的には、駐車場、花壇等での再生資材の利用における施工時及び供用時の安全性等の確認を行うとともに、理解醸成活動のツールとしても活用する。

飯舘村における再生利用実証事業の概要

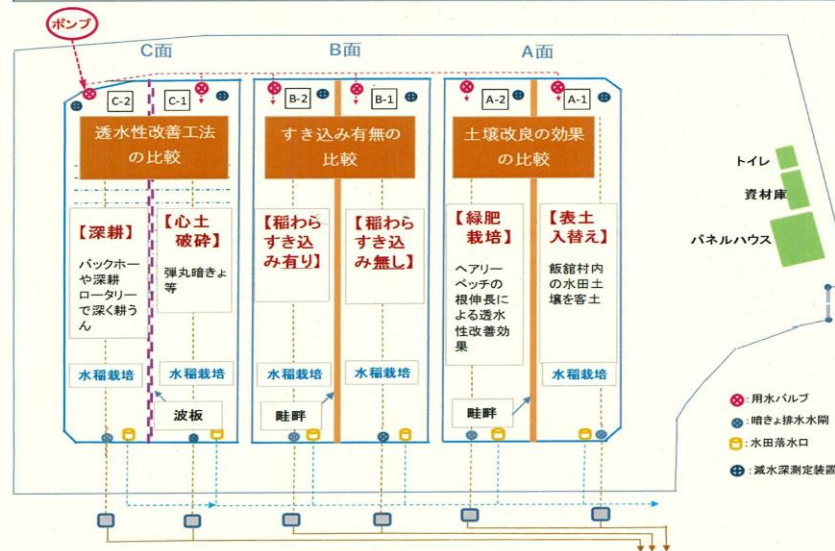
- 2018年4月に認定された「飯舘村特定復興再生拠点区域復興再生計画」において、実証事業により安全性を確認したうえで、造成が可能な農用地等については、再生資材で盛土した上で覆土することで、農用地等の利用促進を図ることとされている。
- 地元の皆様の御要望等を踏まえ、2019年度から露地での栽培実験を開始し、放射性セシウムの移行等に関する科学的知見を幅広く取得している。昨年度から、地元の御要望を踏まえ、栽培実証ヤードにおいて野菜・花き類等の栽培を行った。2021年度に栽培した野菜の放射能濃度は、0.1～2.5Bq/kgであった。

※一般食品に関する放射性セシウムの基準は、100Bq/kg。

※今回の結果は検出下限値未満とされ得る値（厚生労働省の定める食品中の放射性セシウム検査法では検出下限値は20Bq/kg以下）。

- これまでのモニタリングの結果、空間線量率の上昇は見られず、盛土浸透水から基準値を超える放射性セシウムは検出されていない。
- 2020年6月から農地の盛土等工事の準備を順次開始。2021年度は再生資材による盛土を開始。あわせて、水田の機能を確認するための試験を実施。
- 2022年度も、引き続き再生資材による盛土を実施するとともに、水田の機能を確認するための試験を行っている。

水田試験エリアについては、令和3年度の水田試験結果を踏まえ、飯舘村から透水性をさらに改善する方法を検討するための試験を追加実施するよう要望があった。その後、関係機関との打ち合わせにおいて、以下の区画配置にて試験を行うこととした。



【試験の目的】

透水性をさらに改善する方法を検討する。

【試験概要】

透水性改善方法として、
A—土壌改良
B—稲わらすき込み
C—透水性改善工法
を6区画で実施。

減水深調査、現場透水試験、暗渠排水量測定等により、透水性の改善効果を検討。

※区画「B-1」を対照区とする



ビニールハウスでの栽培状況



水田試験エリアの状況

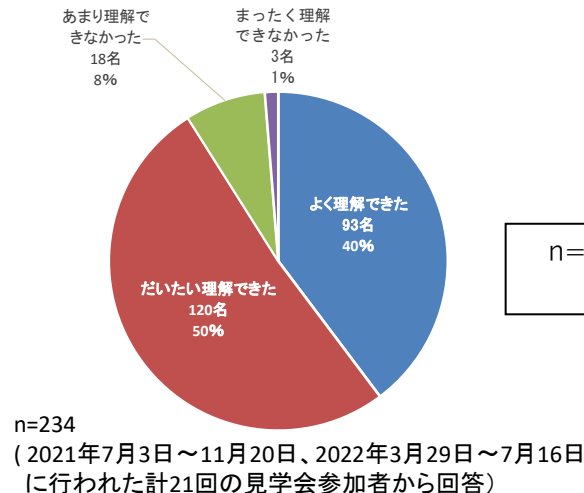
令和4年度水田試験の計画

長泥地区の現地見学会について

- ・長泥地区環境再生事業に対する認知度や理解度を高めるため、一般の方向けの現地見学会を昨年から開催し、本年7月末までに計248名の方に御参加いただいた。
- ・長泥地区環境再生事業の一般の方向け現地見学会において、参加者にアンケートを実施した。その結果については、以下のとおり。

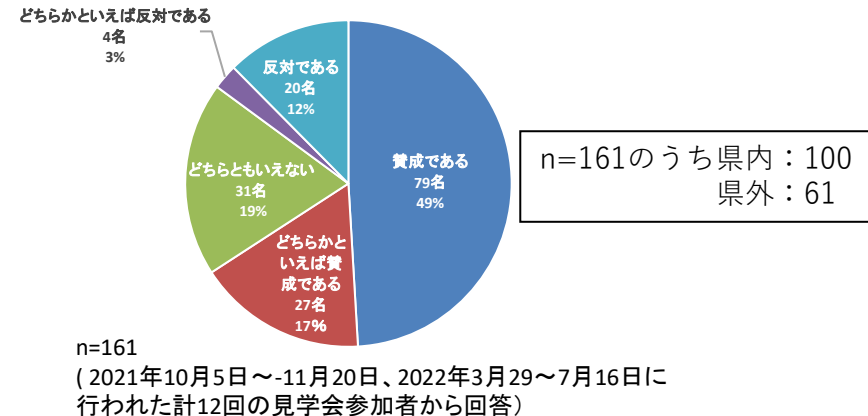
長泥地区環境再生事業現地見学会のアンケート結果について

見学会に参加して、長泥再生実証事業に対して、理解されましたか。



n=234のうち県内：171
県外：63

県外最終処分に向けて、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか



n=161のうち県内：100
県外：61

【アンケートでいただいた意見等】

〔再生利用を進めることに賛成する理由〕

- ・科学的に安全であることが確認できているため。
- ・（再生資材を）活用できるものはどんどん活用した方がいいと考えているため。

〔再生利用を進めることに反対する理由〕

- ・放射能汚染があり、安全性が分からないので反対。
- ・わざわざ再生土を利用する意味が分からない。
- ・多大な費用の使い方の方向性が間違っていると思う。

技術実証フィールドの状況

除去土壌等の処理、減容・再生利用及び県外最終処分を効果的に進めていくため、中間貯蔵施設区域内の実際の除去土壌等を用いて、これらに関する実用的、実務的な技術の開発を行う技術実証フィールドを2020年1月に大熊町に整備し、実証試験事業を実施中。

ドローンによる技術実証フィールド全景（2022年6月時点）



技術実証フィールドの主な施設

実証ヤード	実証試験を実施するための4つのヤードを整備（約1,600㎡／ヤード）
資材置場	試験資材の一時置場
分析棟	放射能濃度分析、土質分析、化学分析等を実施
管理棟	技術実証施設管理のための事務室等を設置

2022年度の実証事業

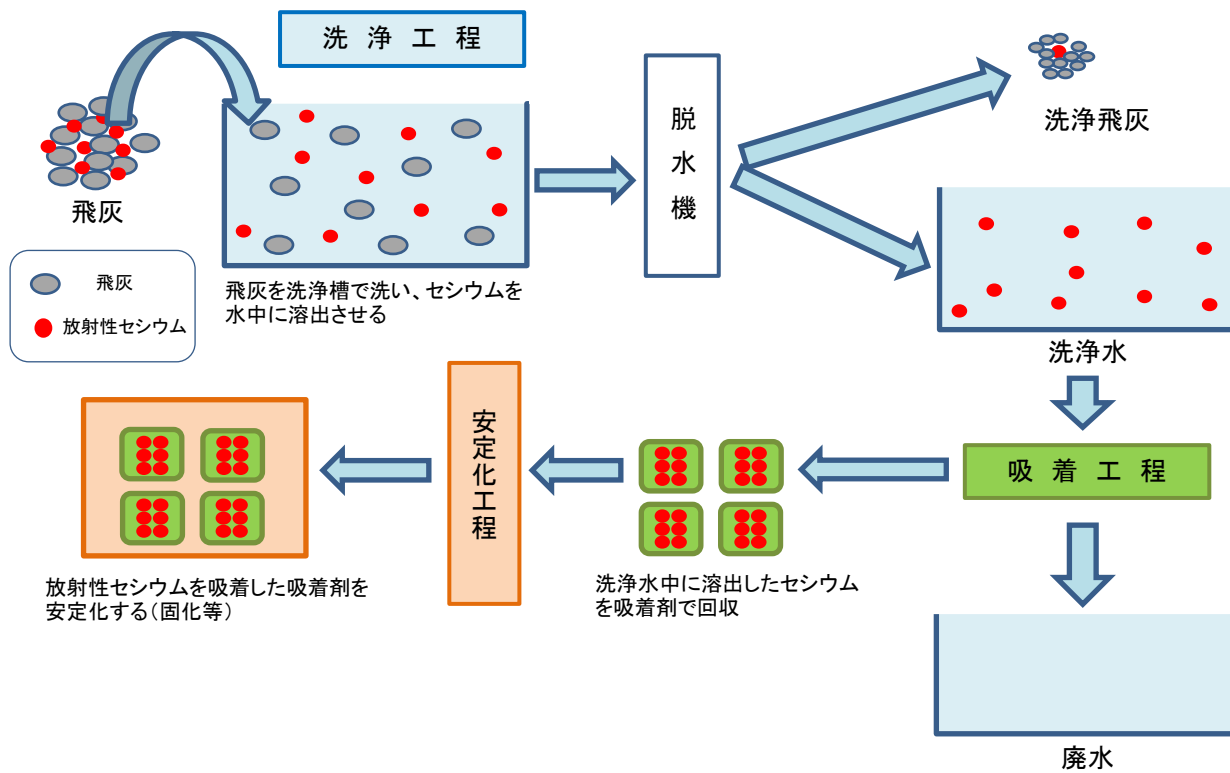
実証試験者	実証テーマ
大林組	溶融スラグの再生利用等技術の実証
大成建設	除去土壌と溶融飛灰と脱水ケーキ等をジオポリマーの固化材料として利用する技術
除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合(VOREWS)	除去土壌を分級処理した砂をコンクリート用細骨材に利用するための技術実証
鹿島建設	高吸水性樹脂含有改質材を含む低放射能濃度除去土壌を大量に再生資材化するための品質調整技術の実証
J&T環境	保管大型土のう袋再資源化の技術実証検討
JESCO・国立環境研究所	除去土壌の再生利用時の安全性や安定性に関する実証実験

飛灰洗浄技術・安定化技術実証試験について

【技術実証試験の内容】

- 仮設灰処理施設で生じる「放射性セシウムが濃縮された飛灰（ばいじん）」の県外最終処分に向け、双葉町（中間貯蔵施設内）において減容化及び安定化を図るための技術について実証を行う。
- 飛灰中の放射性セシウムが水に溶けやすい性質であることを利用し、飛灰を水で洗浄して（洗浄工程）溶け出した放射性セシウムを吸着剤で回収し（吸着工程）、回収した放射性セシウムを安定化体にする（安定化工程）一連の技術について確認する。
- 現在、試験設備の設計・制作中であり、今後の試験開始に向けて据付・設置をしていく予定。

飛灰洗浄技術実証の工程概要



【飛灰洗浄処理技術等実証施設(双葉町)】

竣 工：令和3年3月

全体面積：約10,810m²

実証試験テントのサイズ

：幅約33m×奥行約75m×軒高約10m



除去土壌の再生利用等に関する「対話フォーラム」の開催

福島県内で発生した除去土壌等の30年以内県外最終処分を実現するため、減容・再生利用の必要性及び安全性について全国での理解醸成活動を抜本的に強化。その取組の一環として、昨年度より対話フォーラムを開催している。

第1回

- 日時:2021年5月23日(日) 13:00 ~ 14:52
- 開催形式:全面オンライン開催
- 登壇者:
小泉環境大臣、高村昇氏(長崎大学)、
開沼博氏(東京大学)、なすび氏(タレント)、
カンニング竹山氏(お笑い芸人)ほか
- 参加者数:
オンライン参加(事前登録あり):674名
オンライン視聴(事前登録なし):321名
- 備考:チャットからの質問に3問回答した。



第2回

- 日時:2021年9月11日(土) 14:00 ~ 16:00
- 開催形式:全面オンライン開催
- 登壇者:
小泉環境大臣、高村昇氏(長崎大学)、
関谷直也氏(東京大学)、
岡田結実氏(女優・タレント)ほか
- 参加者数:
オンライン参加(事前登録あり):636名
オンライン視聴(事前登録なし):264名
- 備考:チャットからの質問に17問回答した。



第3回

- 日時:2021年12月18日(土) 14:00 ~ 16:00
- 会場:名古屋国際会議場
- 登壇者:
山口環境大臣、室石環境再生・資源循環局長、
高村昇氏(長崎大学)、開沼博氏(東京大学)、
箭内夢菜氏(女優・タレント)ほか
- 参加者数:
会場参加者:73名
オンライン参加(事前登録あり):130名
オンライン視聴(事前登録なし):136名
- 備考:会場、オンライン合わせて
161件の御意見・御質問をいただいた。



第4回

- 日時:2022年3月19日(土) 14:00 ~ 16:00
- 会場:博多国際展示場&カンファレンスセンター
- 登壇者:
山口環境大臣、室石環境再生・資源循環局長、
高村昇氏(長崎大学)、開沼博氏(東京大学)、
カンニング竹山氏(お笑い芸人)ほか
- 参加者数:
会場参加者:41名
オンライン参加(事前登録あり):109名
オンライン視聴(事前登録なし):127名
- 備考:会場、オンライン合わせて
約165件の御意見・御質問をいただいた。



除去土壌の再生利用等に関する「対話フォーラム」の開催

「福島、その先の環境へ。」対話フォーラム 開催結果概要

日程
2022年7月23日(土) 14:00 ~ 16:00
会場
広島国際会議場(広島県広島市)
主催
環境省 / (後援: 広島ホームテレビ)

プログラム

14:00 開会

山口大臣より開会挨拶
プレゼンテーション「福島県での環境再生事業と今後の課題」
大熊町長・双葉町長 ビデオメッセージ

15:10 対話セッション

登壇者
山口 壯(環境大臣)
開沼 博氏(東京大学大学院情報学環准教授)
高村 昇氏(長崎大学原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野教授)
田代 聡氏(広島大学原爆放射線医科学研究所所長)
高橋 慶彦氏(元プロ野球選手・野球評論家・野球指導者)
佐藤 亜紀氏(HITOkumalab(ヒトクマラボ)代表)
司会
渡辺 美佳氏 ほか

15:50 対話のまとめ、閉会



参加者

会場参加者数 58名 / オンライン参加者数 75名
YouTube同時最大視聴者数 113
※当日は、会場とオンライン合わせて133件の御意見・御質問をいただいた。



対話フォーラムのアンケート結果について

・各回の対話フォーラムにおいては、当日参加者から御意見や御質問を受け付け、開催後にはアンケートを実施した。その結果については、以下のとおり。

対話フォーラム当日参加者からの御意見・御質問について

■ 第1回

- ・除去土壌の福島県外最終処分に向けて、どのように国民の理解を醸成していくのか。
- ・除去土壌の問題を日本の課題とすべきではないか。
- ・科学的知見等の情報発信の仕方を工夫し、積極的な対話・議論が行われるべき。

■ 第2回

- ・除去土壌が今後どのような場で利用されていくのか知りたい。
- ・若い世代に原発事故の問題に関心を持ってもらうためには？
- ・大学とか小さい単位で、このようなフォーラムを開催し、一人でも多くの人に知る機会を提供する必要がある。

■ 第3回

- ・県外最終処分場の場所は、具体的にどうやって決めるのか。
- ・再生利用している場所は公表されているのか。

■ 第4回

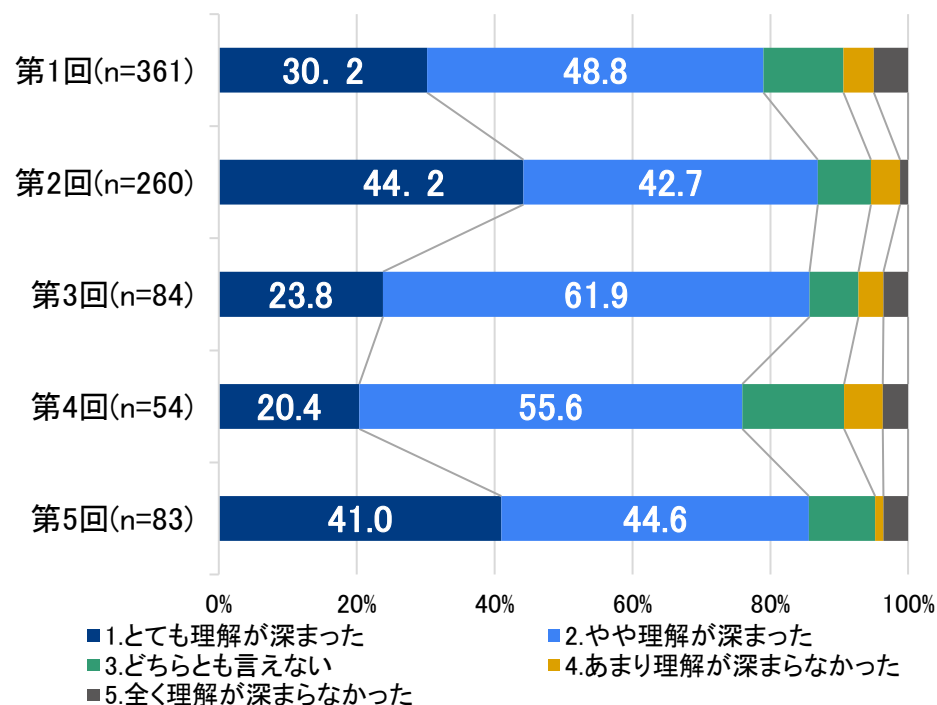
- ・除去土壌のことを議論するときに、経緯や現状の説明がないと全体像がわからない。
- ・双葉町、大熊町の間蔵施設を現地で見学できないのか。

■ 第5回

- ・放射性物質は体内に蓄積されるのか。
- ・再生利用や資材化はどのように行うのか。
- ・県外最終処分について、福島県外の人たちには何ができるのか。

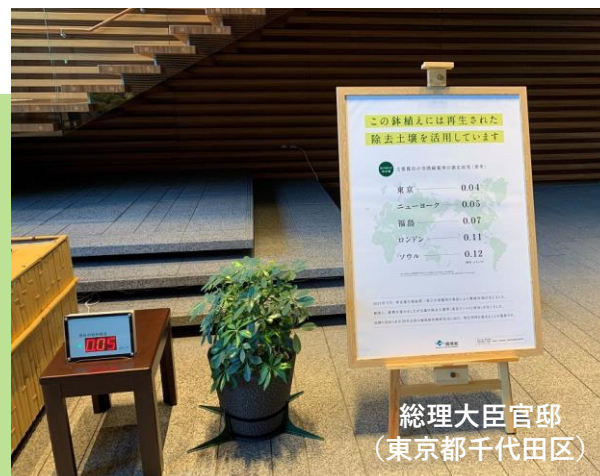
対話フォーラムのアンケート結果について

・「対話フォーラムを通して、環境再生事業の経緯や取組に関して、理解は深まりましたか。」という設問に対して、「とても理解が深まった・やや理解が深まった」と回答した方は、各回ともに約80%に及んだ。



福島県内除去土壌を用いた鉢植え・プランターの設置

除去土壌を用いた鉢植えを、昨年は総理大臣官邸、復興庁、自民党本部、公明党本部、環境省関連施設5ヵ所（新宿御苑、国立環境研究所等）にも設置。2022年3月には除去土壌を用いたプランターを、環境本省の正面入口前に設置し、7月には総務省や外務省といった関係省庁にも設置した。



▼2022年3月には、除去土壌を入れたプランターに花を植えて設置。



広報・普及活動

- テレビ番組:「なすびのギモン」で再生利用に関する取組を紹介し、YouTubeで配信。
- ポスター等の掲示:チラシやポスターを県内外の高速道路のSAやPAに配置。
- 中間貯蔵施設見学会:一般の方向けの見学会(事前申込制)を毎月実施。
- 長泥地区環境再生事業見学会:一般向けの見学会を2021年7月3日から開始し、これまでに計21回開催。
- テレビCM:長泥地区環境再生事業見学会の紹介。

【行程】

集合時刻	12:50 (いいたてスポーツ公園駐車場)
開始時刻	13:00
現地到着	13:30

《見学内容》

- ①再生資材化ヤード ②集中監視室
③水田試験エリア 等

現地出発	15:00
解散時刻	15:30 (いいたてスポーツ公園駐車場)



長泥地区見学会



テレビ番組

中間貯蔵工事情報センターについて

【概 要】

- 2019年1月に国道6号沿いの中間貯蔵施設区域内に情報センターを設置。
- 中間貯蔵施設事業を中心とする福島環境再生に向けた取組について、映像やパネルを用いて分かりやすく紹介。中間貯蔵施設が立地する大熊町・双葉町の風土、歴史や復興に向けた取組なども紹介。

【運営状況】

- 来館者数累計： 14,856 人
平均： 18人/日（平日19人/日 土・祝16人/日）（2019年1月31日～2022年7月31日）
- 中間貯蔵施設区域内をバスで周回する中間貯蔵施設見学会（事前申込制）を毎月実施。
- 2022年5月から7月にかけて、人事院初任者研修のプログラムの一部として703名の視察を実施。



開館時間：10時から16時まで
休館日：日曜・月曜（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始



エントランスゾーン



大熊町・双葉町コーナー



展示コーナー



人事院初任者研修の様子

その他

新型コロナウイルス感染の状況

- 環境省から全事業者に対して、福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策や福島県知事による要請、業界団体等が作成した感染予防ガイドライン等に沿った対策を行うよう、累次にわたり要請・指示を行ってきたところ。
- 感染者数が増加していた2021年8月以降、受注者に対して緊急会議を計8回開催し、各受注者から、それぞれの取組を発表・共有することで、注意喚起を実施。(直近では2022年8月8日に実施。)
- 2021年9月からは、受注者である鹿島建設(株)・大成建設(株)において、環境省との調整により、両社以外の受注者を受け入れる「共同職域接種」を実施。両社関係者および両社以外の5下請け作業員を含む約2,200名を対象に富岡町・浪江町の2会場において行われた。環境省としても、受注者より工事等の一時的な休止等の申し出があった場合、監督職員は関連工事等との工程調整等に協力すると共に、必要に応じて契約工期の変更について調整することとする旨、監督職員へ周知。3回目接種についても2022年6月に実施し、対象者約630名に接種を完了した。
- まん延防止等重点措置の期間中は、視察等について、順延又は工事従事者と外部の来訪者の接触がないように配慮。
- 中間貯蔵施設事業の発注工事受注者における感染者数は、7月31日現在、4月26人、5月8人、6月5人、7月31人となっている。

事業の方針

参考

令和4年度の間貯蔵施設事業の方針①

総 論

○安全を第一に、地域の理解を得ながら、事業を実施する。

輸 送

○特定復興再生拠点区域等で発生した除去土壌等の搬入を進める。

○より安全で円滑な輸送のため、以下の対策を実施する。

- ・運転者研修等の交通安全対策や必要な道路補修等を実施し、安全な輸送を確保
- ・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など、特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化

○福島県と連携し、市町村と調整の上、立地町である大熊町・双葉町への配慮等をしつつ、計画的な輸送を実施する。

令和4年度の中間貯蔵施設事業の方針②

用 地

- 着実な事業実施に向け、丁寧な説明を尽くしながら、施設整備の進捗状況、除去土壌等の発生状況に応じて、必要な用地取得を行う。

施 設

○受入・分別施設及び土壌貯蔵施設

- ・受入・分別施設は、安全かつ計画的に稼働する。
- ・土壌貯蔵施設は、安全に稼働するとともに、整備されたところから順次活用する。土壌貯蔵が終了した施設では、安全性を確保しつつ、維持管理を着実に実施する。

○廃棄物関連施設

- ・仮設焼却施設及び灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設を、安全に稼働しつつ有効に活用する。

令和4年度の中間貯蔵施設事業の方針③

再生利用・最終処分

- 最終処分量の低減に資する、除去土壌等の減容・再生利用に向け、関係機関の連携の下、地元の御理解を得ながら、技術開発や実証事業を実施するとともに、再生利用先の具体化を推進する。
- 県外最終処分に係る経緯や必要性及び減容・再生利用の必要性・安全性等に関する理解醸成活動を全国に向けて推進する。
- 減容処理や安定化技術の更なる開発・検証を行うなど、県外最終処分に向けた検討を進める。

情報発信

- 環境再生に向けた取組や地元の思いなどを発信するための更なる方策について検討を行う。

当面の施設整備イメージ図

当面の施設整備イメージ図

(令和3年12月時点)

現時点での各施設の整備の想定範囲を示したものであり、図中に示した範囲の中で、地形や用地の取得状況を踏まえ、一定のまとまりのある範囲で整備していくこととしています。また、用地の取得状況や施設の整備状況に応じて変更の可能性があります。

土壌貯蔵施設の容量について、既に発注済の双葉①～③工区となる地域や貯蔵高さ、用地確保の状況によって変動しますが、輸送量ベースで1,550万～1,500万㎡程度の行動が可能と見込んでいます。

